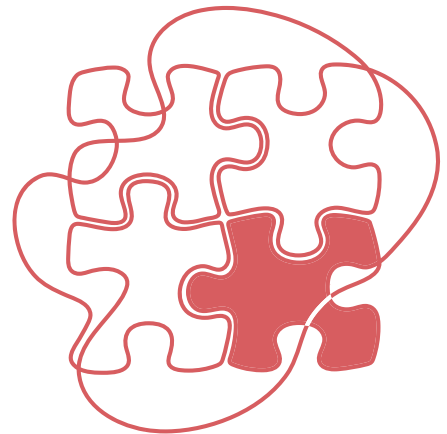


HLAB 2017

Annual Report



GOOD DESIGN
AWARD 2016



WHERE DIVERSITY MEETS LEARNING

HLABが提供するのは

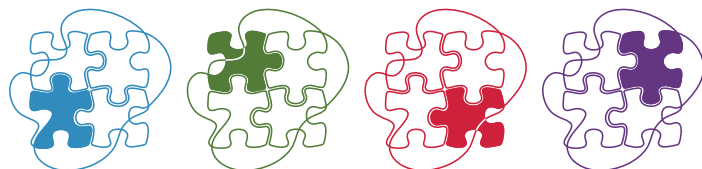
コミュニティでの共同生活を通じて互いに学ぶ

寮生活を中心としたリベラルアーツ教育の環境です。

将来の不確実性と多様な選択肢が混在する現代において

従来の「学校」の形を越えた

教育の新たなあり方を提唱します。



目次

● What is HLAB	4
● HLABのSocial Impact	6
● HLAB特有のマルチセクターアプローチ	8
● サマースクール事業	9
HLAB 2017 実施概要	10
HLAB 2017 運営体制	11
学生代表挨拶	12
HLAB 2017 エンブレム	13
全地域共通プログラム	14
リベラルアーツセミナー	15
フォーラム	23
フリーインタラクション	26
HLAB TOKYO	29
HLAB OBUSE	36
HLAB TOKUSHIMA	42
HLAB MIYAGI-ONAGAWA	48
HLAB 2017 サマースクール報告会	53
参加者について	55
参加メンターについて	59
活動スケジュール	63
メディア掲載	64
Life after HLAB	65
● レジデンシャル・カレッジ事業	69
● 柳井正財団海外奨学金への協力	72
● チーム	73
● 企業情報・沿革	75



What is



住環境を通じた「ピア・メンターシップ」の機会の創出

進路や将来の選択肢は、知らず知らずのうちに、周囲の環境によって狭まりがちです。親の職業や、育った地域や、通っている学校によって、自然と「当たり前」が作られてしまいます。「なんとなく」進路を決めてしまうことが「当たり前」で、目的が持てない。漠然と留学に行きたくても、周りに経験者は少なく、学校の先生の理解もなく、情報もない。大学で何を勉強して、将来どんな道を歩みたいか、イメージできない。

多様な人が集い、語り合う寮生活こそが、「リベラル・アーツ教育」の本丸です。そんな寮生活を再現することで、HLAB は「ピア・メンターシップ」の機会を創出します。「ピア」とは、自分を投影できるような、近い世代、身近なロールモデルのこと。国境も、言語も、世代も越えて、互いが互いの「メンター」となれる教育環境を提供するのが、HLAB です。

住環境

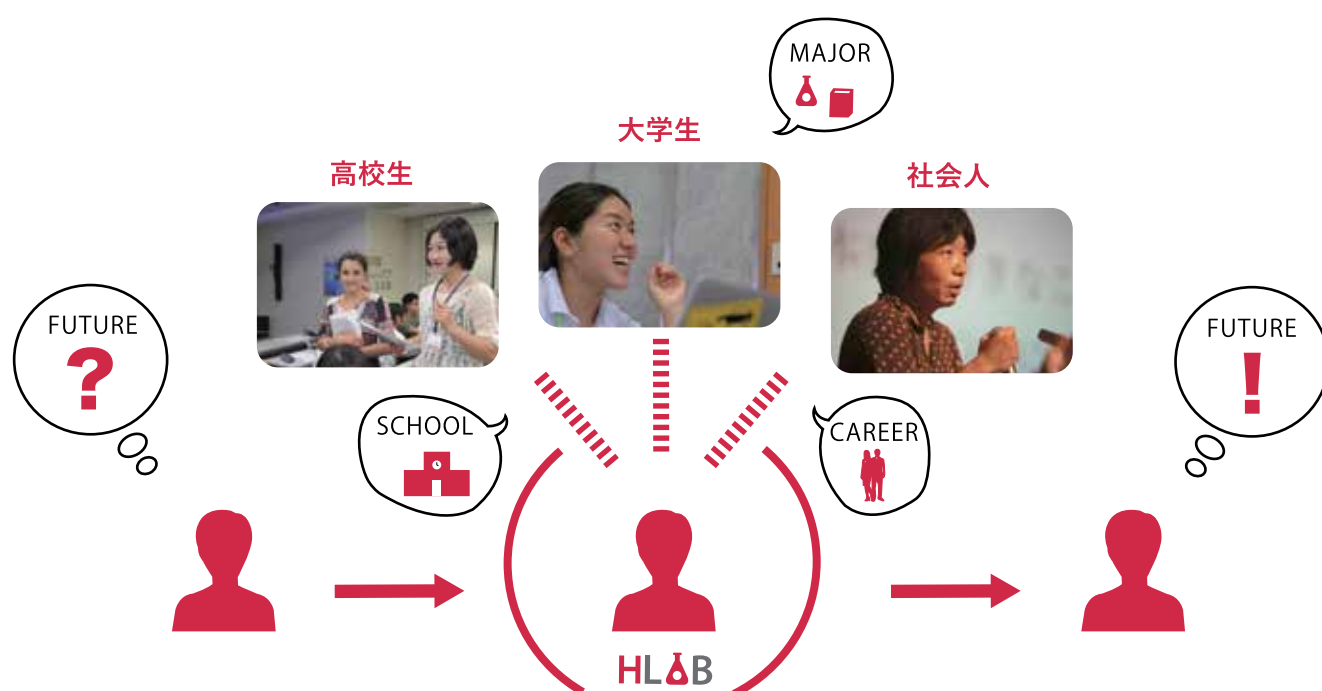
RESIDENTIAL



多様性

DIVERSITY

HLAB の目指す学びのプロセス : Peer Mentorship



そこにあるのは、「授業」からの学びではなく、「人」からの学び。多様な出会いを通じて、自己を見つめなおし、将来を真剣に考える。そんな「リベラル・アーツ教育」が、次世代の日本の教育に求められています。そしてその教育は、誰もが「あったら良かった」と思うものではないでしょうか。

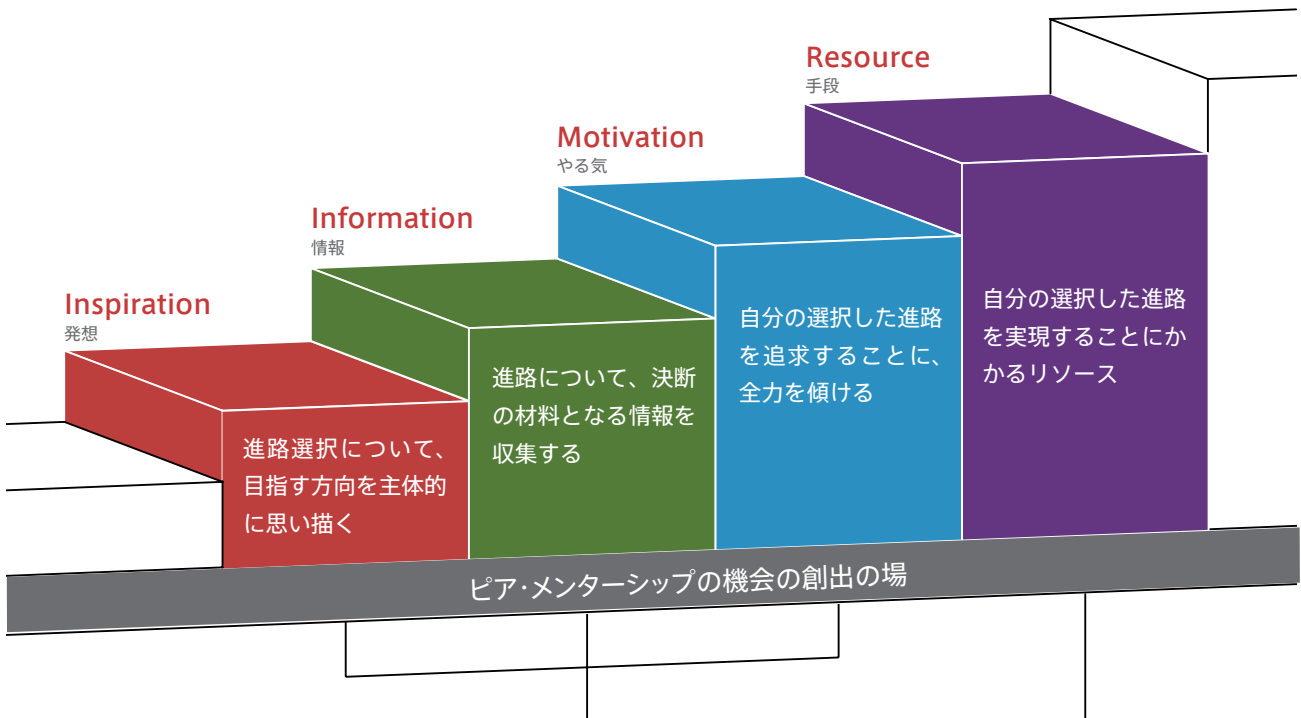
HLAB は、そんな「3 年前の自分があったら良かったと思う教育環境を実現する」ことを理念に、人々が常に「ピア」から刺激を受け、学び続けるための、革新的な学びの体験や空間、そしてコミュニティをデザインする会社です。

HLABのSocial Impact

ピア・メンターシップの機会の創出により、各々の進路選択を応援

HLAB は主体的な進路選択において越えなければならない4つのステップを、多様な人が集まる住環境、ピア・メンターシップの仕組みを通じて、提供します。

主体的な進路選択における4つのステップ：



Summer School

2011年に開始され、全国4箇所において開催される、レジデンシャル・リベラルアーツ教育を再現した事業。リベラル・アーツの寮生活を再現した教育モデルで、2016年度グッドデザイン賞を受賞。



Residential College

サマースクールの経験を日常で再現するため、学校から独立した形の教育寮を開校することを目指す事業。2016年より、中目黒において、プロトタイプを運営中。



Scholarship

サマースクールでのコミュニティ構築の知見を活かし、柳井正財団の海外留学奨学金の制度設計、広報、コミュニティ構築を支援。



70,000 x 20 x 4

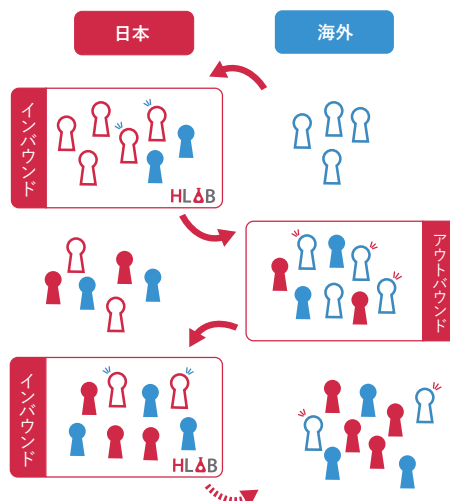


世代を越え、国境を越える強固なメンター・コミュニティピア・メンターシップを通じた学びを目指す HLAB では、コミュニティが非常に重要な要素になります。2011 年以来、HLAB では世代や国境を超越する強固なコミュニティを築き、その規模は年々拡大しています。

- 世代を越え、先輩から後輩へ -



- インバウンドからアウトバウンドへ -



2000

人を超える
卒業生
(アラムナイ)

2011 年の設立以来、国内外の高校生・大学生合わせて、2000 人を越える HLAB 卒業生を排出。卒業生が大学生・社会人となり、それぞれの専門分野を活かして、HLAB との関わりを持ち続けています。

これまで、HLAB には、125 以上の国内外のトップ大学の学生が携わってきました。また、日本の学生が HLAB での経験を経て海外へ旅立ったり、海外の学生が HLAB での経験を通じて日本に就職したりと、インバウンドとアウトバウンドの還流が生じています。

125

以上の国内外
の大学との
つながり

650

人以上の卒業生
が毎年関与

HLAB のサマースクールの運営を行ったり、各種アラムナイ・イベントに出席したり、HLAB の各事業にそれぞれの専門分野から参画したり、と毎年延べ 650 人以上の HLAB 卒業生が HLAB との関わりを持ち続け、自分の経験を次の世代へと還元しています。



HLAB特有のマルチセクターアプローチ

HLAB では、各ステークホルダーが受益者として事業に参画し、それぞれが「自分ごと」として社会課題の解決に取り組む、マルチセクターの協働スキームを構築しました。

HLAB



自治体 (e.g町,県)



栗と北斎と花のまち

小布施町



徳島県



女川町

サマースクールのプログラムを提供し、先進的な教育の場づくりを通じ、地域活性化に貢献しています

サマースクール開催のプログラム・ホストをしています。

HLAB



企業・財界・公的機関



三菱商事

NIKKEI



日本 THE NIPPON
財団 FOUNDATION



Planning & Execution
P&E DIRECTIONS

草の根の活動を通じて、日本の人材育成と教育のあり方をプロトタイピングにより提言します。将来の日本を担う、いわゆる「グローバル」に活躍できる素地を持った人材を育成します。

HLABへの理念に共感くださり、スポンサーシップ・助成などのご支援をいただいています。

HLAB



日本人大学生・海外大学生

メンターとしてのサマースクール事業のプログラム企画・運営・参加を通じて、社会的事業創造のプロセスを学び、ソフト・ハードのスキルセットを身につけます。

大学生には、海外の学生との協働でのプログラム運営を通し、国内外にまたがるネットワーク構築を手助けします。また支援企業との接点を作り、国内外でのキャリアオプションを増やします。「教えること」を通じて、日本に接点がない海外の優秀な人材に日本との接点を提供します。

高校生には、世代を超えたメンターシップの提供。お兄さんお姉さんから得られる気づきや学びを提供しています。

高校生

サマースクールに参加し、進路選択の可能性を広げます。また、将来のHLABにメンターとして成長して関わっていくことができます。これにより、彼らの経験が次の世代へと受け継がれていきます。毎年、参加大学生のおよそ3~4割が過去の高校生参加者となっており、人材の還流が起きています。



HLAB SUMMER SCHOOL

未知なる世界への挑戦を助ける出会い

「授業」からの学びに代わり、メンタリングを通じた多様な「人」からの学びの機会を提供します。



HLAB 2017 実施概要



HLAB TOKYO 2017

場所／ 鳳明館 森川別館（東京都・文京区）
iCLA（山梨県・甲府市）

日程／ 2017年8月14日（月）～22（火）

参加者／ 高校生 80名
海外大学生 20名
日本人大学生 30名
期間中ボランティア 7名
（計137名）



HLAB OBUSE 2017

場所／ 小布施町役場（長野県・小布施町）

日程／ 2017年8月14日（月）～20（日）

参加者／ 高校生 50名
海外大学生 12名
日本人大学生 22名
期間中ボランティア 6名
（計90名）



HLAB TOKUSHIMA 2017

場所／ 徳島県立牟岐少年自然の家（徳島県・牟岐町）

日程／ 2017年8月16日（水）～22（火）

参加者／ 高校生 50名
海外大学生 14名
日本人大学生 24名
期間中ボランティア 4名
（計92名）



HLAB MIYAGI-ONAGAWA 2017

場所／ ELFARO
フューチャーセンター Camass
女川小学校（宮城県・女川町）

日程／ 2017年8月14日（月）～20（日）

参加者／ 高校生 60名
海外大学生 15名
日本人大学生 24名
期間中ボランティア 4名
（計103名）

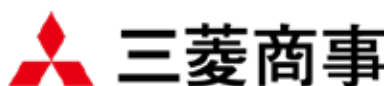
全体参加者数
高校生参加者数:240名
大学生メンター参加者数:160名
期間中ボランティア:21名



HLAB 2017 運営体制

メインスポンサー

三菱商事株式会社



株式会社ピー・アンド・イー・ディレクションズ



後援

株式会社日本経済新聞社



株式会社朝日ネット



HLAB TOKYO 2017

主催：一般社団法人 HLAB

共催：政策研究大学院大学

助成：一般社団法人 東京倶楽部

HLAB OBUSE 2017

主催：長野県教育委員会

共催：長野県小布施町

一般社団法人 HLAB

HLAB TOKUSHIMA 2017

主催：徳島県教育委員会

共催：徳島県海部郡牟岐町

一般社団法人 HLAB

協力：大塚製薬株式会社

HLAB MIYAGI-ONAGAWA 2017

主催：宮城県教育委員会

共催：宮城県女川町

宮城県女川町教育委員会

一般社団法人 HLAB

協力：特定非営利活動法人 アスヘノキボウ

認定特定非営利活動法人 カタリバ

コラボ・スクール 女川向学館



学生代表挨拶



開始から今年で7年目を迎えたHLAB サマースクールは、今年も全国4カ所（東京・山梨県甲府市、長野県小布施町、徳島県牟岐町、宮城県女川町）で240名の高校生を迎えて開催されました。また、本年は既存のサマースクールプログラムに加え、京都府立嵯峨野高校でのワークショッププログラムの実施、山梨学院大学国際リベラルアーツ学部と連携し、東京プログラムの一部を同大学の施設を利用して実施いたしました。

このサマースクールを終えて旅立っていく高校生、大学生がサマースクールで出会った仲間、学びを用いてどのような旅を今後送っていくのか、私たちに提供できるのは、その旅のスタート地点に立たせてあげるきっかけと、必要な少しばかりの荷物だけです。彼らが

やりたいことに挑戦できる旅をおくれるよう、私たちにできることはいつでも帰ってこられる安心な場所を用意し続けておくことなのではないかと思います。

そしてそうした組織であり続けようと努力した結果の一部として、少しずつHLABの経験を経た人たちが各々のタイミングで改めてHLABに参画し始めています。高校生でサマースクールに参加し、大学生でその体験を還元するために運営メンターとして帰ってくる、大学生がHLABの可能性を見出し複数年HLABの運営に関わる、大学生が社会人となり大学生に対して研修を実施する。海外大学生が日本での体験に感銘を受け、日本に関わるインターンや職に携わる。すでに2000名を超える大きなコミュニティとなったHLABのアラムナイの輪は世界各地に広がり、またそれぞれに交錯しています。少ししか歳の違わないお兄さんお姉さんの影響を信じ、多様なバックグラウンドを持った人同士が集い、膝を突き合わせ、語りあい、その中で何気ない交流から生まれるような学びに意識的になる。

そうした全体の環境としての「リベラル・アーツ教育」の実現を目指し、私たちは引き続きサマースクールというプログラムの中で実現できる価値を最大化すべく活動していきます。

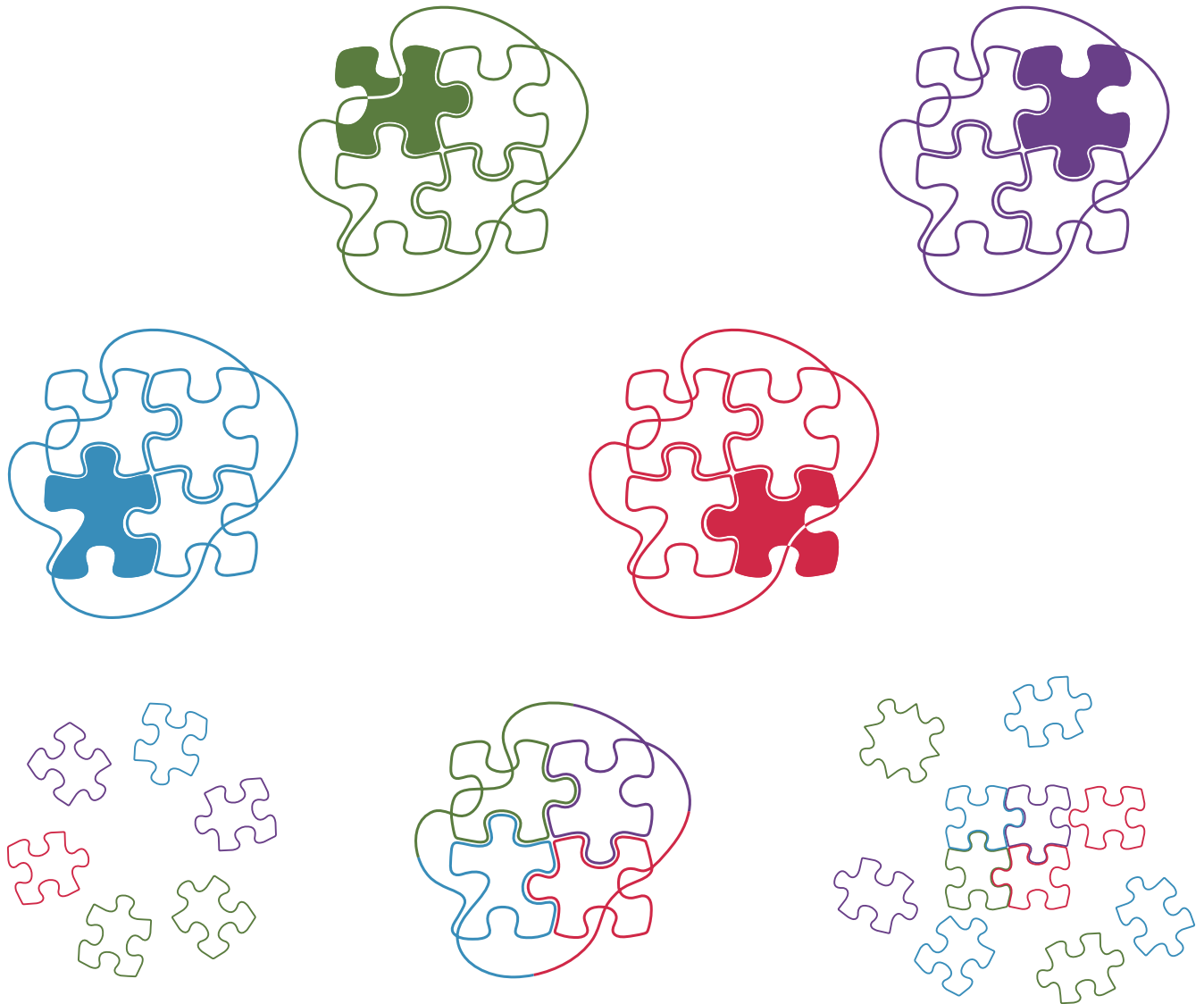
最後にこの場を借りて、日頃から温かなご支援ご協力を賜っております三菱商事株式会社、株式会社ピー・アンド・イー・ディレクションズの皆様をはじめとする支援者の方々に改めて感謝申し上げます。

小林 直貴

HLAB 2017 学生代表



HLAB 2017 エンブレム



多様な人々が集まり一夏から未来を作り上げるHLAB。
それはパズルのように、様々なピースが組み合わせさり一つの形が生まれる。
ピースの境界を超え、繋がることで生まれる一つの輪。一つ一つの個と緩やかに繋がり包み込む全体

WHERE DIVERSITY MEETS LEARNING

—そこでは誰もがかけがえのない1ピース。



全地域共通プログラム



リベラルアーツセミナー

セミナーはハーバード大学の1年生向けの「フレッシュマン・セミナー」を模して設計されています。海外大学生と日本人大学生の2名のメンターが大学での学びの世界に誘う少人数制の授業です。多種多様なテーマの中から関心に合わせて科目を選択します。理系・文系に留まらないリベラル・アーツの根幹となるプログラムであり、高校生にとって新しい興味分野を発見する機会です。

フリーインタラクション

フリーインタラクションは社会人をはじめとするゲストの方々をお迎えし、高校生、大学生、社会人が世代を超えて本音で語り合う場です。個性豊かで多様な背景や専門を持つゲストとの交流は、高校生自身が自分の興味に気付くきっかけとなります。

ハウス・システム

ハウスとは、ハーバード大学や世界各地の寄宿制高校・大学において導入されている、社会人や学生が共同生活を行う「寮」を意味します。そこでは多様なバックグラウンドから人が集い、お互いから学ぶピア・メンターシップが実現されています。ハーバードで教育を受けた多く学生は、「大学であった90%の学びと刺激は、ハウス（寮）生活にあった」と口を揃えます。HLABでは、こうした「Residential Education（寄宿制の教育）の学び」を再現しています。

フォーラム

フォーラムは社会の第一線でご活躍されている方々による講演、パネルディスカッションです。「今、高校生に伝えたいこと」をテーマにご講演頂き、質疑応答を行いました。様々なロールモデルとの出会いを通じ、高校生が多様な価値観に触れ、人生を考える上で大きな刺激を得ることができる機会です。

ワークショップ

ワークショップは答えのない問いに対して参加者同士がともに手を動かし、意見を交換し合うことによって、創造性を発揮する学びの場です。情報を取り入れるだけでなく、外に形として出すことにより刺激的な体験ができます。

HLABにおいては、高校生と大学生メンターからなる行動班を「ハウス」呼んでいます。食事や移動など多くの時間を共にし、毎日のリフレクションで1日の学びや個々の過去を振り返る中で、年齢や出身の関係なくお互いの考えや想いを共有します。少人数だからこそ、高校生感あるいは高校生と大学生の密な交流が生まれる場であり、サマースクール後も暖かく強い繋がりが続く、HLABコミュニティの中核です。



リベラルアーツセミナー一覧

今年度は59のセミナーが開講されました。各分野より、実際に使用したセミナーシラバスから、セミナー概要を抜粋しました。

社会学系 13セミナー

Contents

- A Story About Telling the Truth and Telling a Lie
- A Closer Look into the Global Refugee Crisis and its Challenges
- How Caring for Animals is Important for Us, Them, and the Planet
- How and When Has Life on Earth Become so Good?
- A creative exploration of where theory, economics, and social justice meet.
- The Psychology of Being Rich and Poor in Japan
- GLOBAL MEDIA INDUSTRIES
- Embrace the World
- Religious Pluralism in Today's World and Its Relations to Movies, Ethics, and Culture
- Self Identity Through Media
- Exploring Personal Identities and Intersectionality
- Making an Impact on Global Issues
- An Introduction to General Linguistics

Mentors' Name

Abdullah Eryigit
Anh Tran
Miko Darmanin
Yotam Deree
Gabriela Bonfiglio
Iris Feng
Rachel Liu
Sitong Xu

University

Technical University Delft
Dickinson College
University of Malta
Columbia University
Tufts University
Harvard University
Macalester College
Pomona College

文化系 9セミナー

- Art and Western Popular Culture from 19th Century to Today
- Ways to Look at Culture
- Recognizing the Presence of Media
- A Look into African Cultures Through Folklore
- What? Why? What's next?
- How to Enjoy It and Come Back Alive
- How our role models influence who we are
- Dungeons & Dragons: Learning from your imagination
- The truth about diets

Jiachen Feng
Annelies van der Meij
Justin LiXie
Samantha Morgan
Sien Liu
Jaden Freeze
Steven Ballew
Ekrem Altun
Talha Erbilli

Columbia University
University College Maastricht
Oberlin College
Columbia University
Ghent University
Harvard University
Columbia University
Rotterdam University
The Hague University

心理系 3セミナー

- The Science of Compassion!
- An Introduction to Effective Altruism
- Introduction to Social Psychology

Krishana Raghubeer
Robert Chen
Lora Beltcheva

Columbia University
Harvard University
Columbia University

法学政治系 6セミナー

- An Introduction to International Political Theory
- Law and Society through the Cinematic Frame
- A Study of International Relations
- Can the Power of Kings and Presidents be Justified?
- A survey of Post-World War II America and the Beats' Response
- Understanding American Politics

Yuito Ishikawa
Flora Li
Jordan Hale
Philipp Schreiber
Katie Smith
Miriam Weiss

The College of William and Mary
Harvard University
Centre College
University of York
Columbia University
Tufts University

経営経済系 8セミナー

- The Business Lessons I wish I had in High School
- Financial Markets and the Art of Trading
- The World of Social Entrepreneurship and Innovation World of Social Entrepreneurship and Innovation
- Diving into Behavioral Economics: The intersection of Psychology and Economics
- How to Successfully Develop Your Economic Idea From Scratch
- How do individuals act "economically"?
- Get Rich Slowly How Money Makes More Money
- How To Be An Entrepreneur

Austin Rahmin
Binh Nguyen
Rini Halder
Zachary Sebek
Katrin Kostadinova
Marco Franzoi
Roger Zou
Han Wen Zhang

University of Pennsylvania
Tufts University
Harvard University
Tufts University
Ludwig-Maximilians-University of Munich
University of York
Harvard University
Columbia University

理工工学系 10セミナー

- Architecture Beyond the Building
- CRISPR, ZFN, and TALENs: The Heralds of Gene Editing
- A Brief Introduction to the Human Implications of a Changing Planet
- A Journey from Quarks to Quasars
- Stem Cells, Cloning, and Regeneration
- FEEL ARCHITECTURE
- How to perceive ideas on different scales
- Finding our roles in the context of a global issue
- Moral Decision-Making Using the Case Study of Genetic Testing
- Analyzing the Intersect of Urbanization and Climate Change

Franklin Forbes
Kevin Wong
Luke Zhan
Guy Hughe
Sabrina Chern
Xinyi Qu
Anton Vatev
Christina Chen
Gabrielle FitzGerald
Aku Acquaye

Columbia University
University of California, San Diego
Columbia University
University of Oxford
Harvard University
Columbia University
University of Bath
Yale University
Columbia University
Columbia University

医学系 2セミナー

- Western and Eastern Medicine Approaches and Cultural Sensitivity
- A Course Focused on Self-Improvement and Healthy Living

Danny Le
Samantha Frühwirth

University of Southern California
Columbia University

芸術系 8セミナー

- An Introduction to Symphonic Music
- Comparison between Manzaï and Stand-up
- Art and Activism
- The History and Importance of Ballroom Dance
- Music Theory Through Composition
- Using the Arts to Become Better at Any Task
- Discovering Contemporary Art in Modern Society
- Kusama, Mori, Nara, and Murakami

Peter Youn
Shudi Pan
Laura Dabalsa
Marina Hostrop
Qingyang Mu
Kosta Karakashyan
Claire Kowalewski
Julie Joohyun Lee

Harvard University
Grinnell College
Columbia University
Wellesley College
Colby College
Columbia University
University of Pennsylvania
Columbia University



How To Be An Entrepreneur

How Your Idea Can Change the World

Mentor: Han Wen Zhang (Columbia University, Sociology)

Partner: Takaaki Yoda (Keio University)

Course Description

Dive into the fast-paced world of social entrepreneurs, venture capitalists, and sharks! This course is designed to teach you the principles of entrepreneurship and take you through in real-life the fundamental steps of startup creation. Where did entrepreneurs begin, what steps did they take, and what are their legacies to future generations? These are the questions we will address in the following days. Through presentations, classroom dialogue, case studies, and simulation activities, you will develop a deeper understanding of the exciting world of social entrepreneurship as well as the necessary skills to fund, launch, and grow your own venture.

VOICE

Han Wen Zhang (Mentor)

For my writing reflection: I had an amazing time at HLAB, I thought the seminar was a good way to get to know students but we should space them out during the day because I felt that by the 3rd one students were exhausted from the back to back, especially those who weren't familiar with English. My favorite episode was the camping trip, it makes a difference that we were cooking together. I got much closer to the students after that event.

Takaaki Yoda (Partner)

このセミナーでは、高校生に起業家として「自宅や近所にある身近な不便」を解決する新商品・サービスを2人1組に分かれ考えてもらいました。初日はスタートアップとは何か、こういった流れで発展成熟していくのか等の基礎知識を学び、2日目は自分達の商品のアイデア固めに注力しました。そして最終日にはチーム毎にアイデアを英語で、90秒のピッチを行いお互いにフィードバックを行いました。

英語が得意な子は皆の内容理解の促進やピッチの準備で貢献しようとし、あまり得意ではないと感じる子は、アイデアを出す面で積極的に貢献しようという姿勢がとても印象に残りました。今回セミナーを受講してくれた高校生達には、解決する課題の対象を社会問題に広げ、社会起業家として今後活躍してくれることを願っています。



Animal Welfare: An Overview

Mentor: Miko Darmanin (University of Malta, Philosophy)

Partner: Wataru Tomioka (Hitotsubashi University)

Course Description

This course will explore how we view animals, and how we make assumptions based on what we are used to – our habits, comfort zone, culture – without questioning what we do and consume in our everyday life. The aim of this is to become more aware of the consequences of our diets and on which industries we spend our money, and question why we do so. Becoming more aware of these issues is important not just for animals, but also for us humans, and the environment. The use, production and consumption of animals can have a very negative impact on our bodies and the world in many ways, on top of the fact that animals suffer because of it. We will be looking at things like the effect animal farming has on the environment (ex. Global warming, pollution), animal product consumption has on the body (ex. Heart disease, certain cancers), animal cruelty in general, and how a more equal relationship with animals would be good for everyone and everything involved. Showing more compassion towards animals and reducing animal consumption may not be the complete solution to the issues mentioned, but they are things that we should think about and make more informed decisions about!

VOICE

Miko Darmanin (Mentor)

The most intimidating - and exciting - thing about HLAB seminars and teaching is that all students are different. That said, I noticed some common traits, like motivation, interest, passion, determination. Although most started out shy and unsure about how to take part in the unfamiliar seminar setting, by the end everyone had participated in their own way. Despite being tired, everyone expressed interest in learning and understanding; and despite the language barrier, everyone tried their best to understand and ask questions.

Ryoya Yamamoto (High School Student)

受講したセミナー「Animal Welfare: An Overview」は、人間と動物の関わりについて道徳的視点から考えていくというものでした。人間はなんの権利があって鶏や牛や豚の肉を食べ、卵や乳製品をつくらせるのか、かねてより疑問に思っていた僕は迷わずこのセミナーを選びました。セミナーでは人間が動物に及ぼす影響について説明を受け、非常に心が痛んだのを覚えています。動物は時に自殺を図ることもあるようで、それはつまり、人間が動物に与える痛みやストレスが肉体のみでなくその精神までも蝕んでいるということを意味します。普段食べている肉や卵、乳製品などの製造過程で動物たちは苦しんでいるのです。



A RIGHT TO RULE?

Can the Power of Kings and Presidents be Justified?

Mentor: Philipp Schreiber (University of York, Economics, Politics)

Partner: Fumi Arai (University of Tsukuba, Middlebury College)

Course Description

Nowadays we often take for granted the political system that we live in, where general elections put political representatives into office. These individuals create the government and, through it, tremendously shape the lives we live. But why do we allow them to make these decisions for us even when they are to our disadvantage? Is it justifiable that strangers dictate in our very private spheres of life? This course engages with the field of political legitimacy. The purpose of this course is to introduce students to independent and critical thought on real world phenomena. That is why, rather than starting off by reading the big theorists, this course focuses on the student's own ideas. In this manner we first develop our own understandings of legitimacy. Once we understood and reflected on our own ideas we will start supplementing these with the concepts and ideas developed by theorists over time. Focussing on Social Contract theory we critically evaluate these theories. Subsequently, drawing on the applied frameworks of Schumpeter and Rawls, we apply our abstract theory to real world cases. In the last part of the course we will use the discoveries made in the previous classes to critically investigate the controversial debate on the legitimacy of non-majoritarian institutions. At the end of the course students will not only be familiar with key thinkers but gained experience in systematic and critical reflection of their own ideas. This skill set is paramount for careers in the academia as well as the private sector.

VOICE

Philipp Schreiber (Mentor)

Before coming to Japan I was worried that my students might find it the material too abstract or be reluctant to share their own thoughts in English. I could not have been more wrong: not only were the students some of the brightest high schoolers I have ever met, they were genuinely eager to learn about the subject. Time after time they surprised me with yet another great idea. Seeing them gain more and more confidence in their own ideas was definitely my favourite part of the HLAB experience.



Hitomi Sakai (High School Student)

私が受けた「A RIGHT TO RULE?」というセミナーは、社会形態や思想をベースとして、議論を展開していくものです。セミナーを受けたばかりの私は、英語を理解することもままならない状態で、英語が分からない時は、その都度翻訳してもらっていました。翻訳してもらうことで授業にはついていくことは出来ました。しかし、これでは自分の英語力の向上には繋がらないと思い、毎晩セミナーの予習、復習をしました。その成果が出たのか、日を追うごとに少しずつ断片が理解できるようになり、大雑把ではあるものの、英語の大筋を掴めるようになりました。英語を理解した状態で受けたセミナーは、初日と比べ物にならない位楽しかったです。最後のセミナーが終わった後に、セミナーの2人から「よく頑張ったね」と言ってもらえたことが嬉しかったのと同時に、終わってしまう寂しさを感じ、涙が止まりませんでした。自分の可能性を信じ、1番成長できたセミナーでした。



Using Evidence and Reason to Improve the World

An Introduction to Effective Altruism

Mentor: Robert Chen (Harvard University, Statistics, Applied Math)

Partner: Kae Ozaki (Washington and Jefferson College)

Course Description

This seminar gives an introduction to key ideas within effective altruism, which is about using rational thinking and concrete evidence to guide our beliefs on how to make a positive impact on the world. We will learn about different global issues such as world poverty, global health, animal suffering, and nuclear war risk, as well as approaches to tackling these problems, what charities and other organizations are currently doing, and how to compare the relative importance of addressing each challenge. We will question our existing assumptions and think both quantitatively and philosophically. Finally, we'll explore concrete steps we can take to set ourselves up to effect positive change in the world, through both our careers as well as our everyday lives. These ideas could provide new views on what you want to study in college or work in as a career, a profound sense of thankfulness for the advantages you have in life, and a more cosmopolitan view of the state of human society outside of Japan. These ideas will encourage us to think deeply about ourselves and how we want to interact with society.

VOICE

Robert Chen (Mentor)

Several students selected the risks from artificial intelligence as the most pressing problem to solve and proceeded to eloquently and insightfully discuss their arguments. I was surprised and delighted with their open-mindedness; very few Western students would have considered this idea over other topics we discussed in the seminar, such as poverty. One student mentioned mental health and then taught me about suicide in Japan; another student discussed endangered animals and her dreams of becoming a marine biologist. I taught the students about the charities, policy interventions, and moral frameworks surrounding effective altruism. Meanwhile, the students taught me just as much—not only because I hadn't thought of the global issues topics of my seminar through non-American lenses before, but also because of their diverse perspectives born from a different cultural upbringing and their intellectual curiosity.



Emiri Fukuzawa (High School Student)

Learning effective altruism was eye-opening experience for me. I would like to talk about when we learned about animal welfare which impressed me the most in the seminar. We discussed animal welfare on day 4. Mentors showed us a video. In the video, there were a lot of livestocks such as pig, chicken, cow and so on. They were all raised in small cages and had injuries on their bodies because people beat them. They were forced to eat tons of feed to become fat. They were just treated as rubbish. I was shocked because its image was "real" and I didn't want to face the cruel truth. And what shocked me the most was that I ate them every single day. I ate them without knowing the brutal fact. However, after I watched the video, I thought I should know more about the truth of livestocks and animal welfare. I searched them on the Internet and read some articles. Although I got frustrated with myself because I could not make any big changes, I realized that what I could do now was telling the truth to people who don't know about it. The video changed my perspective on animals and it gave me a new way of thinking. Before the seminar started, I had never heard the wmore worth learning than just studying.



Architecture Beyond the Building

The Use of Architecture to Cross the Boundary of Language and Create a Bridge to Understanding

Mentor : Franklin Forbes (Columbia University, Architecture)

Partner : Arata Hoshino (Waseda University)

Course Description

We will compare and contrast through different forms of mediums the American and Japanese urban layout of the past. From the 1950's, 1970's and the present. Where will our futures combine and go towards your vision of the city of the future? In modern architecture, globalism has started to blend our differences through architecture. Both Japan and the United States have some of the world's top architects. I would like to show the evolution of American culture and how it impacts urban planning in the United States. I will show videos of life in America in different stages (through the medium of film and pictures) and how people from various global and technological influences changed the American aesthetic and the value of collaboration. The goal of this would be to get some reflection on what the future looks like as our individual styles start to merge and become better with outside influences. What would your city of the future look like? Would technology inspire it? Would it be green? Would it be more rural? We will then break down the videos and isolate the frames and talk about that particular part of American culture and how it influenced architecture. We will use West Side Story, specifically the dance scene on the rooftop. It shows the cultural change of New York City. The city became more crowded and therefore more condensed. Very similar to Tokyo and its growing population it would be interesting to examine differently and some of the similar responses to life in the city through time both in New York City and Tokyo.

VOICE

Franklin Forbes (Mentor)

My seminar from HLAB TOKYO is called Architecture Beyond the Building. The class focused on looking at the field of architecture beyond the construction of one building. As a class, we examined the layout of cities like New York and Tokyo and what they could look like with the impact of global warming. I showed them videos of life in America in different stages (through the medium of film and pictures) and how people from various global and technological influences changed the American aesthetic. We also emphasized the importance and the value of collaboration between different cultures in the field of architecture. The goal of this course was to get some reflection on what the future looks like as our styles start to merge and become better with outside influences. What would your city of the future be? Would technology inspire it? Would it be green? Would it be more rural? Specifically, how would Tokyo change by the year 2047? How would our way of life have to adapt to our changing planet?

Fumika Fukumizu (High School Student)

「普通の家概念から抜け出せ」Frank が発したこの一言で、自由な発想が飛翔しました。建築を学んでいる Frank のセミナーの課題は、環境問題に対応する家をデザインすること。既存の家像に囚われていた私は、三角の屋根と四角の土台で構成される、ごく一般的な家をスケッチし始めました。その瞬間に掛けられた冒頭の言葉。そこにこそ、「家ありき」ではなく、自由なデザインを生み出した上で、実際の建物と擦り合わせるという建築の神髄が示されていたように思います。実際に模型を作ると、無謀に思えたものも実現可能な気がしたから不思議なものです。巨匠達がどんな思いで瀟灑な建物を作ったか、その思考を垣間見ることが出来たセミナーでした。



How to Save the Heart

Exploring Alternative Perspectives : Western and Eastern Medicine Approaches and Cultural Sensitivity

Mentor: Danny Le (University of Southern California, Biological Sciences)

Partner: Momoko Haga (Waseda University)

Course Description

This seminar teaches the different approaches to diagnosing and treating cardiovascular disease from both western and eastern medicine approaches. Cardiovascular disease is the number one leading cause of death. For example, myocardial infarctions, or heart attacks, are prevalent yet preventable cardiovascular issues if proper precautionary measures are taken. Western medicine emphasizes the analysis of physiological causes of disease whereas Eastern medicine emphasizes a more holistic perspective. While Western medicine clearly divides health from diseases, Eastern medicine considers health as a balanced state versus disease as an unbalanced state.

Awareness of the different approaches to medicine, and ultimately the different cultural perspectives and values that society has is important in delivering quality care to patients. Respect for the diversity of backgrounds and experiences is integral to not only medicine but all disciplines.

・To understand health issues regarding cardiovascular disease
・To be able to identify and analyze western medicine approaches to cardiovascular disease
・To be able to identify and analyze eastern medicine approaches to cardiovascular disease
・To learn about cultural competency

VOICE

Danny Le (Mentor)

Atherosclerosis? Diabetes? High Blood Pressure? Having grown up in a medically underserved community, I witnessed the significant disparity in the prevalence of chronic diseases like those aforementioned. Resolved to address these inequities in access to quality healthcare both locally and abroad, I sought to inspire younger generations of students through HLAB to help curb these social injustices. Initially unsure about how a medical seminar on cardiovascular diseases would be received by high school students, I felt at ease to see the genuine enthusiasm that my students had for the health and well-being of others. Their eagerness in performing medical screenings like blood pressure and blood glucose and their excitement when participating in discussions about health promotion, disease prevention, and cultural competence reassured me that the future leaders of the world will be compassionate, health-conscious, life-long learners.

Momoko Haga (Partner)

私はセミナーアシスタントとして翻訳や補足説明を中心としたセミナーのサポートを行いました。毎回のセミナーでは実際に医療現場で使用されている器具を用いて、血中の血糖濃度の測定、脈拍や血圧の計測などを行う実践的なパートを設けていました。普段の学校の授業ではなかなか触れられないような器具を前に、高校生が楽しそうに前のめりで学んでいた様子が印象的でした。高校生が既に持っている知識の多さに、セミナーを作る側である私たちの方が驚かされる場面も多くありました。分野の全く異なる4つのセミナーを取る中でこれまでに触れたことのない分野に興味を持ち、それが大学での専攻選びに繋がった参加者も過去に多くいます。今回のセミナーでの新たな学問との出会いが、今後高校生の興味の拡大に繋がればと思います。



Stories Without Words

An Introduction to Symphonic Music

Mentor: Peter Youn (Harvard University, Computer Science)

Partner: Hiroshi Kawakatsu (Haverford University)

Course Description

Welcome to the course!

Classical music may seem intimidating, but we will find that classical music is, in fact, just music. Although the instruments used in a symphonic setting may or may not be familiar, there are things that are undoubtedly familiar to each and every one of us - emotions and stories.

In our journey, we will explore a type of symphonic music called program music - a type of music that attempts to deliver an explicit narrative, or a story. The topic will hopefully help introduce classical music and prove classical music is not as daunting as it may seem; for those who have already been exposed to classical music, the topic should be interesting and enjoyable to talk about.

No musical background is necessary for the course, though a creative and open mind is!

VOICE

Peter Youn (Mentor)

I think the seminar overall was a positive experience for the students - the material seemed enjoyable and approachable for the most part even for individuals with musical backgrounds, and I believe the material is something most students, even if they were to pursue classical music, likely wouldn't come across. However, I believe the material itself, and possibly the seminar, did not leave much room for discussion - there were little discussions based on what students thought but not on the intellectual concepts involving the material. If I were to participate in HLAB again, I would likely choose a different seminar topic for the second reason.



Hiroshi Kawakatsu (Partner)

It was an amazing experience being a Partner. The topic of our seminar, classical music, was something I have never seriously looked into, so I was a bit skeptical on how much I can contribute as an assistant. As we started the classes, however, it went rather smoothly than expected. One thing I realized as a Partner was that, although I was on the teaching side, part of me had to be on the students' side as well. Especially when the materials or topics got dry, as a Partner, I needed to step in to engage with the students. In our seminar, instead of just listening to music for a period of time, I asked the students to imagine and draw based on what they hear. I also realized the importance of a strong Mentor-Partner team. I believe Peter, my Partner, and I were one of the best teams, as we seem to work together very well.



フォーラムゲスト一覧

(敬称略・五十音順)



東 大史
一般社団法人村楽理事 /
REBIRTH PROJECT
地域再生プロデューサー



今西 建太
株式会社ディアライブ
代表取締役・CEO



浦田 修伍
フリーランスデザイナー



大宮 透
一般社団法人小布施まち
イノベーション HUB
事務局長 /
株式会社信濃学会代表



喜多 恒介
慶應義塾大学
政策・メディア研究科
修士課程 2 年



小林 亮介
一般社団法人 HLAB
代表理事



坂野 晶
特定非営利活動法人ゼ
ロ・ウェイストアカデ
ミー 理事長



里岡 美津奈
オフィス L.I.B 代表
(個人事業主)
パーソナルクオリティ
コンサルタント
(ビジネスコーチ)



塩澤 耕平
小布施ハウスホクサイ
管理人 /
カフェ起業準備中



島田 由香
ユニリーバ 人事部



高田 修太
一般社団法人 HLAB
事業開発ディレクター



田島 和彦
割烹 TAJIMA 料理長



徐 東輝
司法修習生 /
NPO 法人 Mielka 代表



中込 孝規
「世界とつながるダンス
教室」代表



西野 史子
一橋大学 大学院社会学研
究科・社会学部
准教授



藤岡 雅美
経済産業省
産業人材政策室



藤川 佳則
一橋大学大学院
国際企業戦略研究科
准教授



**Rodney Van
Meter**
慶應義塾大学
環境情報学部 准教授



宮澤 正憲
博報堂ブランド・イノ
ベーションデザイン代表
/
東京大学 教養学部付属
教養教育高度化機構
特任教授



フォーラム (敬称略)

テクノロジー、教育、法曹、工学、データサイエンス、等々様々な分野で日本社会を先導し続けるスピーカーの方をお呼びし、「今高校生に伝えたいこと」をテーマに講演と質疑応答が行われました。自身のライフストーリーや高校生への問題提起など刺激的なお話を伺うことができました。スピーカーの方の熱意を持って話すことのできる話題に触れることで、高校生が自身の視野を広げるとともに、将来について考える契機となることを目的としております。

スピーカーの方のご講演の後はモデレーターを介したパネルディスカッションや質疑応答の時間をとることにより、高校生とスピーカーとの双方向的な対話の機会を設け、高校生の考えを深めることを意識しました。英語が苦手な高校生のために同時通訳を行う日本人メンターや、積極的に質問をする海外メンターの様子も見られ、各アクターが一体となった場が創出されました。

HLAB TOKYO 2017

島田 由香

日時／ 8月15日 (火)

場所／ ARK HILLS CLUB

島田様の現職に至った経緯や現在取り組んでいる内容についてお話しいただいた後、高校生へのメッセージとして、「どのように生きていく か」という内容にてお話しいただきました。その後の質疑応答では、高校生から日英問わず多くの質問が飛び交い、活気ある刺激の多い時間となりました。



藤川 佳則

日時／ 8月17日 (木)

場所／ アカデミーヒルズ

「デジタル・ディスラプション：価値づくりの未来」をテーマに、2011年度にもお越しいただいた藤川様にご講演いただきました。デジタル技術の革新によって新しい産業革命が進行しつつある中、その激しい環境変化における新たな「価値作り」や未来の捉え方について、お話しいただいた後、その未来の課題や新たな機会について、高校生は各々の質問を通じて理解を深めている様子でした。



HLAB OBUSE 2017

大宮 透

日時／ 8月16日 (水)

場所／ 北斎ホール

小布施町の主任研究員として、どのような活動をされているのかをお話しいただきました。大宮様には、小布施町でHLABを開催する上で多大なるご協力をしていただいています。どのようにして小布施と出会い、なぜここでHLABを開催するに至ったのか説明していただきました。最後に、ご自身の体験談も交えながら、「自分自身のことを深く知る」ことでよりよく生きることができる、とのメッセージをいただきました。

喜多 恒介

日時／ 8月16日 (水)

場所／ 北斎ホール

喜多様は現在、大学院生、起業家、経営者など、様々な場所で活躍されていますが、それらの行動の根底には、人と人とのつながりで社会をより良くしたいという気持ちがあるとおっしゃっていました。そのために幾つもの団体を立ち上げ、今までで1万人もの学生と会ってきています。「成果を出せるまでは長い時間がかかるため、今から目標に対し努力をするべき。今は全力を出して色々な世界を見よう」とアドバイスされていました。



HLAB OBUSE 2017

小林 亮介

日時／ 8月16日（水）

場所／ 北斎ホール

HLAB を立ち上げた経緯、そして HLAB の理念についてお話していただきました。その中で高校生に伝えてくださったメッセージは「Don't Look for a Manual (マニュアルを探さないで、やる)」そして「Live the Current, not Future(未来でなく、今を生きる)」。

また、今後の寮事業など HLAB の今後の構想についてのお話もしていただきました。

中込 孝規

日時／ 8月16日（水）

場所／ 北斎ホール

中込様のスピーチは、会場全体でダンスをするところから始まりました。そして、かつては後ろ向きだった性格が、大学で徐々に変わっていく様子をお話いただきました。「世界一周をする」という夢を実現しようと、ベネッセコーポレーションを4年で退職し、1年半で18カ国57都市を周りながら、1万人以上の子供とダンスを踊りました。各地で撮った写真やビデオを見ながら、世界中の人々と向き合ってきた体験談や、「自分のやりたいこと、好きなこと」をしながら生きていくための心構えなどについてお話していただきました。

Rodney Van Meter

日時／ 8月16日（水）

場所／ 北斎ホール

バンミーター先生には、はじめに量子コンピューターの仕組みを、縄や模型を使って実演し、分かりやすく説明していただきました。いつも「研究者」「学ぶ人」「教える人」3つの活動を行っており、線引きをすることはできないとのことでした。スピーチの中で、研究者としての姿だけでなく、家族や友人たちと共に過ごす「私生活」の姿も紹介されました。私生活は仕事以上に大事であるとおっしゃっている様子が印象的でした。

塩澤 耕平

日時／ 8月16日（水）

場所／ 北斎ホール

テーマは「夢を自分で決めること」。ご自身がヘルスケアの世界から、地元長野でのシェアオフィスやカフェ経営へと進路転換なさった経緯とともにお話いただきました。夢が見つからない、いざ夢に進もうとすると周りの人と衝突してしまう。そんな誰しも一度はぶつかるであろう状況に寄り添い、励ましてくれるスピーチに高校生は大いに励まされたようです。

西野 史子

日時／ 8月16日（水）

場所／ 北斎ホール

ご自身がハーバード大学ライシャワー記念日本研究所で在外研究をなさった経験を元に、日米の雇用形態や教育環境の違いについてお話いただきました。また家庭とご自身のキャリアを両立なさっている先生から、これから社会に踏み出す女性への力強いメッセージもいただきました。高校生が大学での学びの世界へ踏み出す、よい機会となったようです。



フォーラム (敬称略)

HLAB TOKUSHIMA 2017

浦田 修伍, 高田 修太, 田島 和彦

日時 / 8月18日 (金)

場所 / 牟岐町海の総合文化センター

浦田様のコーディネートによる、全く異なる分野で活躍する新進気鋭のゲストによるフォーラムが実現されました。法人スタッフの高田がファシリテーターを務め、まずはゲストそれぞれの高校時代の進路選択の話や、自分が熱意を持って取り組んできたこと、「プロフェッショナル」として仕事に臨むことの意義などのお話を伺いました。後半は、高校生が少人数のグループに分かれ、それぞれのグループで登壇者の方に自由に質問できるトークセッションを設け、登壇者の方々の思いに直接触れることのできる貴重な機会となりました。



東 大史

日時 / 8月20日 (日)

場所 / 牟岐町海の総合文化センター

ひとつのビジネスに依存せず、多方面でキャリアを築くパラレルワークの実践者である東大史様にご登壇いただきました。東様は徳島県内の地方創生事業に携われたご経験をお持ちでもあり、講演ではこれまで地方創生に携わられてきた理由や、婚活と町おこしを組み合わせたイベントといったユニークな事業を起こすことを通して学んだ人生の教訓などについてお話しいただきました。高校生にとっては、自分のやりたいことや好きなことを追求する大切さや、文系・理系に限らず人生には多様な選択肢があることに気づく良い時間となりました。



HLAB MIYAGI-ONAGAWA 2017

里岡 美津奈

日時 / 8月18日 (金)

場所 / 女川まちなか交流館ホール

「夢」や「やりたいこと」を見つけるための手段として「自分が“ご機嫌”でいられるにはどうすればいいか?」を考える」という考え方についてお話しいただきました。また「スーパーCA」と呼ばれる程の自身の功績に対し、特別な才能や飛び抜けた能力によるものではないと説明した上で、大事なものは「体調や周りの状況に関わらずいつも同じパフォーマンスを続ける」事であるというメッセージをお伝えいただきました。



宮澤 正憲

日時 / 8月18日 (金)

場所 / 女川まちなか交流館ホール

日頃よりキャリア教育に携わっていらっしゃるご経験に基づき、「夢」や「やりたいこと」の見つけ方についてお話しいただきました。特に夢ややりたいことが見つからずに迷う高校生に対し、キャリアの歩み方には「表参道と裏参道」の2通りがあると述べた上で、「広告会社なのにキャリア教育」の様に“「なのに」を味方に”というメッセージを伝えていただきました。



フリーインタラクショングストー一覧

(敬称略・五十音順)

HLAB TOKYO 2017

荒畦 悟	官民協働海外留学創出 PT トビタテ！留学 JAPAN プロジェクトオフィサー
安藤 正英	官民協働海外留学創出 PT トビタテ！留学 JAPAN プロジェクトオフィサー
飯野 将人	ベンチャーキャピタル経営
岩井 睦雄	日本たばこ産業株式会社
大和田 梨沙	株式会社ドトールコーヒー 人事部 採用教育課（新卒採用担当）
小尾 尚子	UNHCR
梶川 奈津子	リクルート
加藤 重治	国立研究開発法人 理化学研究所 理事
金井 理紗	Deloitte Tohmatsu Consulting
河本 あさ美	UWC ISAK Japan
古閑 孝典	三菱商事株式会社 人事部 採用チーム
佐々木 弘一	東京大学大学院 人文社会系研究科修士 1 年（宗教学専攻）
佐藤 信雄	ハーバード・ビジネス・スクール 日本リサーチ・センター長
佐野 智樹	経済産業省 通商政策局 通商政策課
清水 英明	総合商社 人事部マネージャー
下向 依梨	教育クリエイター（株式会社 Live Innovation 教育クリエイト事業部マネージャー）
下村 大介	三菱商事株式会社 人事部 採用チーム チームリーダー（7 月末現在）
新造 真人	アーティスト / 写真家 / 玄関居酒屋
滝沢 翠里	エンジニア
竹川 隆司	株式会社 zero to one 代表取締役社長 / 一般社団法人東北風土マラソン & フェスティバル代表理事
辰野 まどか	一般社団法人グローバル教育推進プロジェクト（GiFT）専務理事・事務局長 / 東洋大学客員教授
田中 誠人	人事部
塚田 光	三菱商事株式会社 人事部 採用チーム
辻 芳樹	学校法人辻料理学館理事長 / 辻調理師専門学校校長 / 辻調グループ代表
鶴原 幹	経営コンサルティング
土居 晶	野村アセットマネジメント株式会社
中川 剛之	三菱商事株式会社 人事部 採用チーム
西川 朋子	官民協働海外留学創出 PT トビタテ！留学 JAPAN プロジェクトオフィサー
野島 嘉之	三菱商事株式会社 法務部長
野村 善文	Haverford College
野村 高文	NewsPicks 編集部
林 英治郎	ソフトバンク株式会社 人事本部
馮 年	映画プロデューサー
藤崎 一郎	一般社団法人日米協会 会長 / 上智大学 国際関係研究所 代表 / NHK 国際放送番組審議会 委員長
Paul Horak	Medical Student at Stanford
堀江 敦子	スリール株式会社 代表取締役
本多 達也	UI デザイナー
本多 俊毅	一橋大学大学院 国際企業戦略研究科 教授
Bronwyn Mackay- Payne	Director of Admissions, Brisbane Boys' College
水上 友理恵	国際協力機構 (JICA) アフリカ部 カントリーオフィサー
村田 博信	「Global Japan Initiative」ディレクター
Jennifer Messina	Founder and CEO of Global Learner and the Global Education Innovation Centre
山崎 一也	山崎一也建築設計事務所代表 / 一級建築士
横山 匡	アゴス・ジャパン代表取締役 / HLAB 共同創設者・ヘッドコーチ
吉橋 明日香	外務省 国際協力局 地球規模課題総括課
Rachel Leng	株式会社ウィズ・パートナーズ
脇 雅昭	公務員（総務省・神奈川県）



フリーインタラクションゲスト一覧 (敬称略・五十音順)

HLAB OBUSE 2017

大宮 透	一般社団法人小布施まちイノベーション HUB 事務局長 / 株式会社信濃学舎代表
喜多 恒介	慶應義塾大学 政策・メディア研究科 修士 2 年
小林 亮介	一般社団法人 HLAB 代表理事
塩澤 耕平	小布施ハウスホクサイ 管理人 / カフェ起業準備中
中込 孝規	「世界とつながるダンス教室」代表
西野 史子	一橋大学 大学院社会学研究科・社会学部 准教授
Rodney Van Meter	慶應義塾大学 環境情報学部 准教授

HLAB TOKUSHIMA 2017

東 大史	一般社団法人村楽 ^{そんらく} 理事 / REBIRTH PROJECT 地域再生プロデューサー
井上 琢人	三好市地域おこし協力隊
浦田 修伍	フリーランスデザイナー
岡田 元一	有限会社 三八代表取締役
加藤 翼	クリエイティブスペース 100BANCH アンバサダ / 京都造形芸術大学 在学中
Lance Kita	徳島文理大学 英語専任教員
木屋村 浩章	徳島県立海部高校 教頭
高坂 沙助	株式会社トータス
小林 冬馬	徳島大学 総合科学部人間文化学科 心理・健康コース 4 年
近藤 洋祐	電脳交通 CEO / 吉野川タクシー 代表取締役社長
高田 修太	一般社団法人 HLAB 事業開発ディレクター
瀧 誠司	うずしお法律事務所 代表弁護士
田島 和彦	割烹 TAJIMA 料理長
畑 英文	オフィス BAMSO 代表
龍治 玲奈	日本マイクロソフト株式会社 法務・政策企画統括本部 政策企画本部渉外・社会貢献課 課長

HLAB MIYAGI-ONAGAWA 2017

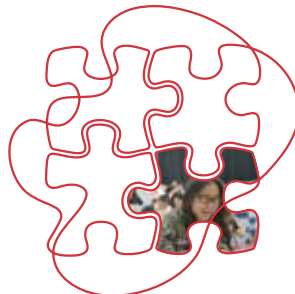
阿部 真	ロート製菓株式会社 広報・CSV 推進部 地域連携室
阿部 喜英	有限会社梅丸新聞店 代表取締役
今西 建太	株式会社ディアライブ 代表取締役・CEO
樫原 洋平	株式会社リンクアンドモチベーション 執行役員 / 早稲田大学・上智大学 非常勤講師
北村 忠弘	群馬大学 生体調節研究所 教授
厨 勝義	株式会社アイローカル 代表取締役
小松 洋介	特定非営利活動法人アスヘノキボウ
坂野 晶	特定非営利活動法人ゼロ・ウェイストアカデミー 理事長
佐藤 千晶	フリーアナウンサー
須田 善明	宮城県女川町 町長
徐 東輝	司法修習生 / NPO 法人 Mielka 代表
高橋 正樹	株式会社高政
塚本 廉	シリアルアントレプレナー
藤岡 雅美	経済産業省 産業人材政策室
松井 理人	株式会社日立製作所 人事教育総務センタ 採用グループ主任
毛利 親房	株式会社仙台秋保醸造所 代表取締役
横山 匡	アゴス・ジャパン代表取締役 / HLAB 共同創設者・ヘッドコーチ



HLAB TOKYO 2017

世界と出会い、自分と出会う

東京ならではの多様な価値観との出会いを通して、自分自身を見つめ直すきっかけを。



Daily Report: TOKYO

Day 1: 8月14日

熱意ある高校生が緊張した面持ちで続々と集まり、国内外のメンターを含め延べ137人が集い、開会式を行いました。開会式では、代表理事の小林や委員長の宇都木のスピーチに加え、高校生代表にも壇上してもらい、これから始まるサマースクールへの意気込みを語ってもらいました。その後、初めてハウスメンバーと対面した参加者と絆を深めていく為に、アイスブレイクを行いました。まだ出会って間もないメンバーでしたが、ストーリータイムというアクティビティを通してお互いのバックグラウンドを知ることが出来ました。ウェルカムディナーではSelfie大会が開催され、違うハウスのメンバーも知る機会となり、緊張した表情も段々と和んでいく様子が伺えました。美味しいディナーを楽しんだ後、一日の締めくくりとしてハウスごとに初めてのリフレクションを行いました。これからの共同生活の中で高校生がどんな表情を見せてくれるのか、非常に楽しみにになりました。



Day 2: 8月15日

朝早くから有志の参加者でヨガを行いました。朝食をハウスごとに取ったのち、海外メンターによるセミナーの初回が行われました。本年度のセミナーもとてもバラエティ豊かでした。英語の講義に少し不安げな高校生も見受けられましたが、理解しようと積極的に発言をしている様子がとてもたくましかったです。午後からは、ユニリーバジャパン・島田由香様のスピーチを拝聴し、自分にとっての「幸せな人生の過ごし方」や「リーダーシップ」について考えを深めました。宿泊施設の鳳明館へ戻り、夜は多数の社会人の方をお招きし、フリーインタラク션을行いました。普段話す機会のない方々にどんなお仕事をされているのか、なぜその仕事に就こうと思ったのかなどのお話を伺い、自身の将来のビジョンを考えるきっかけとなりました。



Day 3: 8月16日

前日同様にセミナーを受講し、ハウスごとにお昼を食べました。午後からは、HLAB TOKYO 2017 全員の絆を深めるべく大学生フリーインタラク션が行われました。異なるハウスのメンターや参加者同士で過去、現在そして未来について議論を重ね、一気に距離感を縮めることが出来ました。その後、自己分析ワークショップでは、自分の好きなことやこだわりを紹介する偏愛マップを作成しました。偏愛マップの共有を通して互いの意外な共通点が見つかり、多様な仲間との交流が一段と深まりました。夜には社会人の方々とフリーインタラク션を行い、年代の垣根を超え、議論しました。リフレクションでは数日間でインプットしてきたことを自分の中で整理し、言語化する場となりました。



Day 4: 8月17日

4日目の朝の活動では、プロダンサーの金井理紗様にサルサダンスを教えて頂きました。また、4日目は前半期間のセミナー最終日であったので、各セミナーでこれまでの学びのまとめを行い、高校生一人一人が振り返りをし、最終講義を終えました。午後にはフォーラムゲストとして一橋大学の藤川佳則様にご登壇頂き、価値づくりの未来について考え、最後にはディスカッションをさせて頂きました。ディナーではホームカミングで過去にHLABに参加した「アラムナイ」との交流を通じて、高校生たち一人一人がサマースクールでの学びをどうすれば最大化できるのかを意識することができたと思います。鳳明館では最後のフリーインタラクションとリフレクションを行い、山梨へ向けての準備をしつつ一日を終えました。

Day 5: 8月18日

バスに揺られること約2時間。サマースクール後半戦の会場、山梨学院大学へ到着しました。到着早々、大学生フリーインタラクションを行いました。専攻別にわかれた大学生に高校生が学術的な大学生活の疑問や悩みをぶつけ、対話を通して主体的な進路選択を具現化する場として活用しました。その後のプレゼンテーションワークショップではプレゼンの手法を吸収し、実際に人前でプレゼンをし、自らの考えを発信することの重要性を学びました。沢山のコンテンツが詰まった一日を締めくくるのは今までのリフレクションとは一味違った高校生のみのリフレクションです。東京プログラムとは打って変わった雰囲気の中、思い思いにアウトプットを行いました。後半戦に突入し、インプットに加えて学びの整理や言語化を促す企画が段々と増えてきました。

Day 6: 8月19日

セミナーの後半戦がスタートしました。昼食の時間には、テーブル毎に高校生が話してみたいテーマを設定して、ご飯を食べながらそのテーマについて語る、テーマランチの時間でした。各々の興味の赴くままに語り合い濃密な時間を過ごしました。午後にはアゴス・ジャパン代表取締役の横山匡様にバトンをお渡しして、自己分析ワークショップを実施しました。自分の過去の経験や環境が今の自分を形作るのにどのように影響してきたのかをワークシートを活用して理解することで、これからの自分の進路や将来を考える手助けになるようなワークショップでした。



Daily Report: TOKYO

Day 7: 8月20日

セミナーも残すところ2日となり、高校生の発言や積極性に大きな変化がありました。ハウスロゴ企画ではこれまでサマースクールで活動の多くを共にしたハウス毎に分かれて、ハウスを象徴するロゴを製作しました。期間中に刺激を受けた言葉や想いを絵やイラストに表すことで、ハウスの思い出が増えました。午後のタレントショーでは高校生・大学生一人一人が自らの「タレント」を発揮しました。サマースクール期間中に合間を縫って練習を繰り返した成果が壇上での披露に現れ、パフォーマンスを行う側だけでなく、観客側にとっても、とても素敵な時間になりました。



Day 8: 8月21日

海外メンターによる最後のセミナー授業が行われました。これまでに学んだ内容の振り返りとこれからの学びについてのアドバイスを受けました。午後のラストレクリエーションではハウス毎にクイズや人間知恵の輪などのブースを回り、屋外では水風船を行い、暑い山梨の夏にひんやりとはしゃげる機会となりました。夜は豪華な夕食を囲むフェアウェルディナーではみんなで楽しいひとときを過ごし、最終日の出発に備えました。



Day 9: 8月22日

閉会式は高校生代表の2名によるスピーチと1人1人への修了証書授与が行われ、8泊9日のサマースクールを振り返る最後の時間でした。荷物をまとめて部屋をきれいにする姿はどこかHLABサマースクールが終わってしまうことへの儚さがありました。その姿からは日常に戻りゆく中で、サマースクール中に受けた刺激を自分なりの行動に取り込む決意を感じられました。酒折駅での高校生との別れはとても印象的な瞬間になりました。



ワークショップ



自己分析ワークショップ[偏愛マップ編]

日時／8月16日(水)

場所／東京大学

自分の大好きなものやこだわりで白紙を埋め尽くした「偏愛マップ」を作成し、互いに見せ合いました。高校生同士が仲良くなるだけでなく、相手の価値観を受容する姿勢を持てるようになることも狙いでした。初対面の高校生同士でも、あっという間に意気投合したり、すでに顔見知りの仲でも新しい一面を知ってさらに仲を深めていたり、生き生きとした高校生の様子が伺えました。

自己分析ワークショップ[ゲスト講師編]

日時／8月19日(土)

場所／iCLA

ゲスト講師をお呼びして、前半は対談形式でお話をお聞きし、後半はワークシートを用いた自己分析を行いました。アゴス・ジャパン代表取締役の横山匡様に加え、日本パラリンピアンズ協会副会長の根木慎志様にご登壇いただき、ご自身の経験を基にした貴重な話を伺いました。また、高校生同士他ご紹介を行い、自分と相手を深く理解することができました。

プレゼンテーションワークショップ

日時／8月18日(金)

場所／iCLA Cafeteria/ 各教室

この企画は高校生参加者の自己発信を後押しする企画です。サマースクール前半の東京でのインプット中心の企画から、山梨での終盤に向けてのアウトプットを刺激するきっかけと位置付けました。高校生は小グループに分かれてメンターからスピーチの作り方と発表の仕方を直接学びながら実践するだけでなく、ピアメンターシップに必要な、「語り」をより能動的なものにする機会となりました。

ハウスロゴワークショップ

日時／8月20日(日)

場所／iCLA Cafeteria

写真や画用紙などを使って、各ハウスを視覚的に表現する「ハウスロゴ」を作成しました。高校生は自分たちを色や書体、形で表現することに戸惑いを覚えていたようでした。しかし、段々とコツが掴め、メンバーの想いを集約しつつ積極的に素材を用いて作成するようになり、最後にはどれもハウスメンバーの特色が反映された生き生きとしたハウスロゴが完成しました。また、このワークショップを通じて、ハウス内でさらに絆が深まったことを実感しました。

Meeting at Our Cross Roads

日時／8月18日(金)

場所／iCLA Cafeteria/ 各教室

サマースクール中の企画は大学生メンターがリードする企画がほとんどですが、本企画は大学生が全く関わらず、高校生だけで作り上げる企画でした。参加者は、企画の始めに与えられた答えのない問いに対して、各々の思いや考えを、同世代の仲間たちと共有し、お互いの価値観を理解し合いながら、より一層仲を深めることができました。



その他企画

開会式

日時／ 8 月 14 日（月）

場所／ 政策研究大学院大学 想海樓ホール

HLAB TOKYO 2017 の幕開けとなる本企画では、代表理事・小林亮介による 基調講演のほか、HLAB 設立当初から多大なご支援を頂いてきた三菱商事様、HLAB 監事の横山様、株式会社ピー・アンド・イー・ディレクションズ様によるご挨拶を頂きました。また高校生代表による所信表明では、サマースクールに対して高校生が抱く不安と興奮が伝わってきました。

アイスブレイク

日時／ 8 月 14 日（月）

場所／ 政策研究大学院大学

初めて出会う参加者同士の緊張をほぐし、打ち解け合えることを目指したワークショップでした。9 日間を共に過ごす仲間について知るべく、前半ではお互いの特徴や趣味などの自己紹介を行った後、後半では緊張をほぐすためのアクティビティが実施されました。会場は和んだ様子で締めくくられ、この先の 8 泊 9 日に大きな期待感を抱く時間となりました。

ウェルカムディナー

日時／ 8 月 14 日（月）

場所／ 政策研究大学院大学 食堂

初日の夕食であるこの企画では、8 泊 9 日を共に過ごす仲間とセミナーの不安やハウスへの期待を語り合い絆を深めていました。食事中は真剣にお互いを知ろうとする一方で、ミニゲームでは積極的に写真を撮り合い楽しんでいました。新しい仲間が出来た嬉しさが溢れる雰囲気でした。

ホームカミングディナー

日時／ 8 月 17 日（木）

場所／ 東京大学農学部 食堂

HLAB TOKYO 2011 から 2016 までのアラムナイと HLAB TOKYO 2017 の参加者が一堂に会し、年度を越えた交流を図りました。アラムナイには HLAB サマースクールの思い出、サマースクールがきっかけで今やっていることなどを話していただきました。

サマースクール後に新しい道に進んだアラムナイのお話は、高校生にとって自分の将来を描く良い機会となったようです。

大学生フリーインタラクション

日時／ 8 月 18 日（金）

場所／ iCLA Cafeteria/ 各教室

本企画はサマースクールの折り返しを意識して、前半であまり話す機会のなかった大学生と高校生を繋ぎ、企画終了後も高校生にとって質問のしやすいオープンな環境と個人間の関係作りを目標としました。高校生が主体となり、自分が興味のある分野を実際勉強している大学生との対話を通し、明確になりつつある自身の将来へ向け、今すべきことを各々言語化する機会となりました。

テーマランチ

日時／ 8 月 18 日（金）

場所／ iCLA Cafeteria

テーマランチは高校生と大学生が、決められたテーマへの対話によって楽しく昼食を食べる企画です。普段同じハウスの人と交流する機会が多い中で、ここではあまり話したことのない人とも交流することができるチャンスでした。対話を通じて、多様な人のことを知り、テーマについて各々が考えを爆発させている姿がとても印象的でした。

タレントショー

日時／ 8 月 20 日（日）

場所／ iCLA メモリアルホール

毎年行われているタレントショーでは、高校生・大学生が自分の特技や趣味を披露したり、全員で参加型のパフォーマンスを楽しみました。歌・ダンス・ヨーヨー・ビートボックスなどを始めとする幅広いパフォーマンスと、場を盛り上げる高校生ならではのエネルギーに、会場は最初から最後まで大盛り上がりのうちに終わりました。今まで大勢の前に出たことがなかった高校生が殻を破る機会になったと同時に、見ている側も仲間の意外な一面を知ることが出来たのではないのでしょうか。サマースクール終盤に行われた本企画でしたが、出演する側も見る側も一体となり、ここで出来た最高の仲間と、忘れられない思い出が出来たのではないかと思います。



フェアウェルディナー

日時／ 8 月 21 日 (月)

場所／ iCLA Cafeteria

最後の夕食で行われた本企画は、全員がドレスアップをした特別な雰囲気のもと行われました。8 日間寝食を共にし、自分自身や将来について熱く語り合った仲間たちと立食を楽しみつつ、サマースクールでの学びや気づきを互いにシェアしました。ビンゴ大会も大いに盛り上がり、思い出に残る最後の夜となりました。

Last Recreation

日時／ 8 月 21 日 (月)

場所／ iCLA

高校生と大学生全員が最後の思い出作りをするための企画です。前半は、Cafeteria 内でハウス毎のクイズラリー。クイズのお題をサマースクールの今までのイベントやハウスらしさと絡めました。後半では、グラウンドで全員で身体を動かしてもらいました。水風船を用意すれば、大学生も高校生も関係なくお互いに投げ合い、笑いあっており、サマースクールで彼らが築いた信頼関係が見て取れました。

開会式

日時／ 8 月 22 日 (火)

場所／ iCLA

社会人をお招きしてスピーチしていただいたり、大学生・高校生が率直な想いを言葉にしたりし、参加者全員がサマースクールを振り返り、未来への決意を固める場となりました。最後に高校生が感じていることを自由に発言できる時間を設け、たくさんの高校生が自分の思いを共有してくれました。会場にいる全員が共に思い出に浸り、学びを実感し、考えを深めることができました。

朝勝

日時／ 期間中全日程

場所／ 鳳明館 /iCLA

朝ヨガをしました。神経を張る企画が多い HLAB でゆったり体を動かせる企画です。朝早いながらも毎朝 10 名近くの高校生が参加してくれ、気楽に過ごせる時間が持てて少し緊張を解けた企画になりました。17 日はサルサダンスを行い、一番参加者が多い日になりました。

読書企画

日時／ 期間中全日程

場所／ 鳳明館・iCLA Cafeteria

大学生が高校生の時に読んでおきたかった本や一番好きな本、大学で使用する教科書などを展示し、高校生に貸し出しました。また、大学生が読み終えた本を、興味のある高校生に譲り渡しました。

期間中は多くの貸し出しがあり、高校生は自分の関心分野の本を積極的にもらったり、大学生と本について語るなど、本を通じた学びの姿勢が見られました。

HLAB ポスト

日時／ 期間中全日程

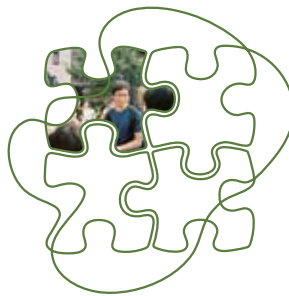
場所／ 鳳明館・iCLA Cafeteria

参加者が自由にお互いに手紙を送れるよう、HLAB ポストを設置しました。ちょっとした会話のきっかけにしたい、文章だからこそ伝わる想いがある、手元に残る思い出が欲しい。そんな願いから作られたポストです。期間中は大学生と高校生との間のやりとりはもちろん、高校生間での手紙のやり取りも見られました。



HLAB OBUSE 2017

さあ、旅をはじめよう。「あたりまえ」から踏み出す夏を、小布施で。
長野県小布施町。どこにでもありそうな小さな田舎町で、あなたの人生を変える旅が始まる。



Daily Report: OBUSE

Day 1: 8 月 14 日

期待と不安を胸に小布施の地に降り立った高校生は、そこで初めて大学生と会いました。開会式では小布施町でお世話になっている方々をお招きし、町全体で HLAB OBUSE 2017 の幕開けを祝います。委員長や海外メンターに加え、高校生代表それぞれが立派なスピーチを行い、町長のカウントダウンに合わせて色鮮やかな風船を飛ばしました。飛んでいく風船と共に、高校生の期待も膨らみます。また、その後、地図を手に小布施町を散策しました。



Day 2: 8 月 15 日

初めてのセミナーで高校生は少し緊張気味でしたが、お昼に流しそうめんを皆で食べ、海外メンターや大学生と次第に仲良くなっていきました。また、大学生によるフォーラム「LifeTalk- 十人十色の人生」では、大学生メンターのこれまでの人生で大切にしてきた価値観や考えについて聞き、高校生にとって今後の人生の参考になるような貴重な話が聞けました。さらに、自己分析ワークショップでは英語を使った CT(Compass of Thought) や日本語で AI (Appreciative Inquiry) を行いました。自分たちがなぜ HLAB に参加したのか、どのような将来を考えているのかを長い時間をかけて深く考える時間は貴重なものになりました。



Day 3: 8 月 16 日

3 日目はセミナーの他にフォーラムも行いました。そこでは、HLAB 代表理事の小林亮介を含め、社会学やダンスなど多種多様な分野でご活躍されている社会人 7 名をお呼びし、幅広い分野に渡る魅力的な話を聞き、高校生にとって自分の視野を広げるきっかけになったようです。その後のフリーインタラクションでは、高校生が登壇者の方々に積極的に質問をしており、互いに充実した時間を過ごしていました。



Day 4: 8 月 17 日

午前中のセミナー後、実際に街中を歩き小布施町の雰囲気を感じつつ、地域のお店でお昼ご飯を食べたりしました。午後のタレントショーでは、高校生や大学生が歌やダンス、日本舞踊、体操など様々な演目を披露しました。メンバーの新たな一面を垣間見ることができ、ショーは大盛況でした。そしてこの日は、高校生や大学生が地域の方々の家にホームステイする唯一の日です。海外メンターは実際に日本の家庭で過ごすことで日本文化を直に感じられたようです。また、少人数で宿泊することで高校生同士の距離もさらに近づきました。サマースクール期間中に一度非日常から日常に戻ることで日常を振り返り、自分を改めて見つめ直す機会になったようです。



Daily Report: OBUSE

Day 5: 8 月 18 日

5 日目の朝はホームステイに行っていた高校生・大学生が帰ってきました。地元の方々のお宅で小布施での生活を体験し、さらにこの町が大好きになったようです。午後には高校生と大学生がじっくりと話せる場を用意し、対等な立場で本気で語り合える Dialogue Session を実施しました。高校生だけでなく、大学生にとっても新しい気づきに出会えた時間だったようです。夜には HLAB OBUSE の一大イベントであるお祭りが開催され、地域の方々の協力による絶品屋台や心地の良い音楽が場を会場を包み込みました。また今年は「ヒカリの祭典」と呼ばれるボトルを使ったアートイベントを企画しました。幻想的な灯りは、HLAB OBUSE 2017 をより一層記憶に残るものにしてくれる事でしょう。さらに過去 4 年間の HLAB OBUSE 関係者を招待し、年代を超えた活気のある場が生まれました。



Day 6: 8 月 19 日

6 日目は、午前に最後のセミナーを行いました。サマースクールの終わりに間近に控え、多くのセミナーで 4 日間のセミナーの成果をアウトプットすることができました。午後は、「Our Lives As a Forest」とテーマを置いた自己分析を行いました。自己分析は、HLAB で何を学んだか、サマースクール後はどう行動したいか長い時間をかけて考えることができました。ただ頭の中で自分について考えるだけでなく、実際に手を動かしたことで考えているイメージを具体化することができました。HLAB OBUSE 2017 では、サマースクール後の高校生の日常についてにフォーカスしてきました。2 日目にも自己分析の企画を行い、そこではサマースクールを有意義にすることについて考え、そして 6 日目でサマースクール後の日常について深く考えてもらいました。高校生の進路選択など、重要な意思決定のきっかけになるような貴重な時間になりました。



Day 7: 8 月 20 日

午前中は閉会式を行いました。閉会式では委員長の挨拶から始まり、7 日間を振り返るエンディングムービーを鑑賞しました。みんなあっという間の 7 日間の出来事・感じたことを思い返しました。その後はハウス毎に登壇し、高校生は 1 人 1 人大学生からのメッセージと共に修了証書を受け取りました。フェアウェルランチはハウスの仲間と昼食の時間を過ごしてから、それぞれ好きな事をする時間です。リフレクションで話さきれなかった事を話し合ったり、写真を撮ったり、ハウスの仲間の存在の大きさを気付かされる時間になりました。



ワークショップ



自己分析ワークショップ

日時／ 8月15日（火）

場所／ 講堂

自己分析ワークショップでは、Compass of Thought と Appreciative Inquiry の2つのアクティビティを通して、自分自身を見つめ直す時間をとりました。何となく分かったつもりでいても、なかなかじっくり考える機会のない「自分」というテーマ。幼少期、小中学生、高校生、そしてサマースクール中の自分をみんなで分析しました。

タレントショー

日時／ 8月17日（木）

場所／ 北斎ホール

Obuse's Got Talent タレントショーでは高校生や大学生がそれぞれの才能・特技を披露してくれました。カラオケ、日本舞踊、楽器演奏、ダンス、空手など多様性あふれるパフォーマンスが沢山ありました。ハウスでの出演や大学生と高校生のコラボなども見られ、大いに盛り上がりました。最後には集合写真も撮り、HLAB OBUSE 2017の一体感がより強まる企画となりました。

ホームステイ

日時／ 8月17日（木） - 18日（金）

場所／ 小布施町の各御家庭

古くから人が行き交い、集まる街、小布施。その文化の中で、訪れる人々をもてなす心が継承されてきました。そんな小布施でのホームステイでは、サマースクールという非日常の中で、小布施の日常に出会うことができます。ホストファミリーの皆さんの温かさに触れ、小布施を存分に楽しむことのできるこの企画は、小布施町民の方々の全面協力の元に開催できています。

Dialogue Session

日時／ 8月18日（金）

場所／ 役場内各所

高校生が様々な大学生とじっくり話す機会をつくりました。あえてあまり話したことのない大学生と話す機会を作るため、メンター1人につき高校生3~4名の事前に決めたグループで各々じっくり話しました。このサマースクールを通して感じていることや、悩みや進路などについて語り合う様子が見られました。話すことで、自分の考えていたことを整理したり、他者の話を聞くことで新たな刺激を受けたりと、それぞれのグループで充実した空間が広がっていました。

お祭り

日時／ 8月18日（金）

場所／ 千波館

最大のイベントの1つであり、アラムナイのホームカミングの場であるお祭り。参加者の多くが浴衣に身を包み、アラムナイの交流もあり思い思いに小布施での一夜を楽しみました。また今年度は参加者の「日常の写真」をオブセ牛乳様の牛乳瓶の中に入れ、光で灯すといったアート作品を制作し、参加者の「日常」と「小布施」が一つになり、特別な空間となりました。

Our Lives As A Forest

日時／ 8月19日（土）

場所／ 講堂

HLABへ来るまでの過程をしっかりと振り返り、サマースクール後の日常、将来をどのように過ごしたいかを深く考えました。そして話したい人と自由に対話しつつ自分への理解を深めていきました。その上で、自分について感じることを思いのままに一本の木の絵として描いてみて、それについてさらに周りの子達と対話をするという考えに考えるワークショップでした。自分について意識はしていなかったが深い所に気づき、新たな発見をする高校生達も多かったようです。



その他企画

開会式

日時／ 8 月 14 日（月）

場所／ 北斎ホール

開会式では小布施町でお世話になっている方々をお招きして、町全体で HLAB OBUSE 2017 の幕開けをお祝いしました。委員長・Camp Mentor リーダー・高校生代表、それぞれに立派なスピーチを披露してもらい、小布施町町議会関係と長野県教育委員会の菅沼次長よりご祝辞を賜りました。オープニングスパークでは町長のカウントダウンと共に風船を飛ばしました。

OBUSELFIE

日時／ 8 月 14 日（月）

場所／ 講堂・小布施町内

アイスブレイクとして、OBUSELFIE（オブセルフイー）を行いました。小布施はその美しい景観で非常に有名です。これから 7 日間過ごす場所がどのようなところかを五感で感じつつメンバーの中を深めます。小布施町の中心部を散策しながら、ハウスごとに「ひんやりセルフイー」などのお題に沿って自撮りをしました。価値観の違いを、写真を通して感じつつも、これから過ごす場所や人たちに安心感を得る企画となりました。

ウェルカムディナー

日時／ 8 月 14 日（月）

場所／ 講堂

ウェルカムディナーでは小布施町 市村良三町長から乾杯の音頭をいただき、小布施町の美味しいご飯を食べました。立食形式のパーティーで、ハウスや国境の枠を越えて高校生も大学生も交流する姿が印象的でした。またメンター 2 名がピアノとギターで即興演奏をし、素敵な音楽と共にオーブンを囲みながら楽しい時間を過ごしました。

フェアウェルランチ

日時／ 8 月 20 日（日）

場所／ 北斎ホール

閉会式・修了証書授与式後のフェアウェルランチ・ファイナルリフレクションでは、ハウス毎に集まって昼食をとりながら、高校生希望者のサマースクール後の行動の決意や展望のスピーチを聞きました。昼食後はハウスでまだ十分に話せてなかった内容について深めたり、集合写真を改めて撮ったり自由に過ごしました。

閉会式

日時／ 8 月 20 日（日）

場所／ 北斎ホール

7 日間のサマースクールを締めくくる閉会式。市村良三町長から挨拶をいただき、運営委員長、海外メンター、高校生のスピーチが行われました。そして最後には 7 日間を振り返るエンディングムービーを鑑賞しました。みんなあっという間の 7 日間の出来事・感じたことを思い返しました。修了証書授与式ではハウス毎に登壇し、高校生は 1 人 1 人大学生からのメッセージと共に修了証書を受け取りました。

送り出し

日時／ 8 月 20 日（日）

場所／ 北斎ホール

大学生メンターが高校生をみんなで盛大の送り出しました。高校生、運営メンバーが長い列をつくり、一人一人と顔を合わせて挨拶をしました。全員と言葉を交わし、サマースクールの最後を締めくくるととても濃密な時間となりました。



HLAB TOKUSHIMA 2017

Dive Into A New World

あなたの世界は、見方ひとつで全く変わる。当たり前だと思っていた世界も途端に「新しい世界」になる。



Daily Report: TOKUSHIMA

Day 1: 8月16日

ついに7日間のプログラムが始まりました。徳島市内からのバスが会場に到着すると、バスから降りてくる高校生を大学生がハイタッチをして出迎えました。直後に行われた開会式では、徳島県教育委員会教育長の美馬持仁様、牟岐町長の福井雅彦様、婦人会を代表して石本知恵子様にご挨拶をいただき、また、運営委員長の川端と海外メンターを代表してロバートから高校生に向けて激励の言葉を贈りました。その後、ハウスごとに分かれてアイスブレイクを行うと、バスを降りてからずっと緊張していた様子の高校生からも少しずつ笑顔がみられるようになりました。夕食後には、大学生メンターの紹介や、HLABの歩み、サマースクールに対する心構えについて説明がありました。これからの7日間で高校生がどのように成長するのが楽しみです！



Day 2: 8月17日

サマースクール2日目は、海外大学生によるセミナーから1日が始まりました。緊張した面持ちで始まったセミナーでしたが、セミナー終了時には皆満足そうな顔をしていました。午後からは甚上直子様をゲストにお呼びして、「自己理解とチームワークのためのパーソナリティ・タイプ入門」を実施致しました。このセッションを通して自分を理解し、今後の人生に役立てて欲しいと思います。セッションの後には、徳島県知事である飯泉嘉門様による県知事セミナーが行われました。高校生参加者は、県知事のお話を熱心に聞いていました。



Day 3: 8月18日

この日も午前中はセミナーが行われました。2回目ということもあり、積極的に手を上げて発言したり、ディスカッションに参加したりする様子が多く見受けられました。午後からは、フリーランスデザイナーの浦田修伍様と割烹TAJIMA料理長の田島和彦様をフォーラムにお招きしました。高校生は、ゲストがそれぞれの進路選択の話や、自分が熱意を持って取り組んできたことを聞いていました。その後のフリーインタラクションでは、フォーラムのゲストに加え、徳島県にゆかりのあるゲストも加わり、活躍するゲストの方々との交流を通じ、高校生も大変刺激を受けたようでした。



Day 4: 8 月 19 日

この日は、7 日間のサマースクールが折り返し地点を迎えました。午前中はタレントショーをしました。前日まで参加をためらっていた高校生もいましたが、個性溢れる才能を持った多くの高校生や大学生が参加してくれました。午後からは町の人との交流会をした後、藍染体験・出羽島散策・シュノーケリングの 3 つの中から好きなプログラムに参加しました。徳島ならではの企画に高校生は徳島の良さを肌身に感じていました。また夜にはキャンプファイヤーを実施し、全員で火を囲みながら大学生メンター、高校生の代表者がそれぞれの立場からサマースクールへの想いを語ってくれました。



Day 5: 8 月 20 日

セミナーも後半戦に入りました。各自が海外メンターから与えられた課題にしっかりと取り組んだ上でコミュニケーションを取っている姿がとても印象的でした。午後からは東大史様によるフォーラムが開催されました。その後フリーインタラク션을行い、高校生は自身の興味分野の話に聞き入っていました。



Day 6: 8 月 21 日

セミナー最終日には海外メンターから習ったことをアウトプットするために高校生がたくさん質問している様子が見受けられました。またお昼ご飯は、牟岐町の地元の方々とともにカツオのたたきと一緒に作りました。普段食べるカツオのたたきとは違った本格的な味が大盛況でした。午後からは牟岐町に伝統的に伝わる行灯をみんなで作り、200 個もの行灯を海辺へ並べ、鑑賞しました。その後は、夜空を見上げながら思い思いに HLAB で学んだことや夢について語り合いました。



Day 7: 8 月 22 日

7 日間のプログラムを終えて閉会式が行われました。参加高校生は修了証書を受け取りました。最後のメモリアルタイムではプログラムの感想を述べ、一週間の思い出を振り返りました。を授与し、7 日間のサマースクールをやり切ったという充実した気持ちを今後も忘れずに、このサマースクールを次への一歩につなげてほしいと願ってやみません。HLAB は、そしてここで出会った仲間たちは、皆さんが人生で悩んだとき、迷ったとき、そして喜びを誰かと分かち合いたいと思ったとき、いつでも戻ってきて良いところです。また逢う日まで。



ワークショップ



自己理解とチームワークのための パーソナリティ・タイプ入門ワークショップ

日時／ 8 月 17 日（木）

場所／ 牟岐町海の総合文化センター

ハーバード・ビジネス・スクール日本リサーチセンターのシニア・リサーチャーである甚上直子様をお呼びして自己理解のためのワークショップを行いました。甚上様のレクチャーのもと自分自身の特徴・パーソナリティを洗い出し、新たな自分を発見し、見つめ直す時間となりました。ワークショップでは、参加者同士のコミュニケーションを通して、自己理解はもちろん、他人への理解も深めることが出来ました。

出羽島散策

日時／ 8 月 19 日（土）

場所／ 出羽島（牟岐港より連絡船で 15 分）

地元牟岐中学校の生徒さんと一緒に、国の重要伝統的建造物群保存地区にも指定されている出羽島でのワークショップを行いました。伝統的な漁村集落の佇まいを肌で感じながら、島内の観光スポットの巡る散策を行った後、ストーンペインティングやスイカ割りなどのアクティビティーを楽しみました。島独特のゆっくりと静かに流れる時間の中で、心身ともリフレッシュする機会となりました。

藍染体験

日時／ 8 月 19 日（土）

場所／ 株式会社トータス

牟岐町の隣町、海陽町にある（株）トータス様の工房にて藍染と生葉藍染の 2 種類の染色を体験させていただきました。ハンカチに 4 種類のデザインをもとに染め付けを行い、参加者 24 人の個性あふれる作品が出来上がりました。また、工房の外では藍を栽培しており、藍色がどのような植物から生まれるのかを実際に観察することもできました。徳島の伝統文化である藍について、職人さんから直接話を聞き、手解きを受けて体験する時間は大変貴重なものとなりました。

シュノーケリング

日時／ 8 月 19 日（土）

場所／ 牟岐少年自然の家

牟岐少年自然の家の目の前にあるビーチでシュノーケリングを行いました。最初はプールでシュノーケルの使い方のレクチャーを受け、道具に慣れてから海に出て観察を行いました。8 月の海は水温も高く気持ちよく、また、海藻が繁茂する水中にはカラフルな魚がたくさん泳いでいました。牟岐町の美しい自然を感じることができ、一同大満足のシュノーケリング体験となりました。

あんどん作成ワークショップ

日時／ 8 月 21 日（月）

場所／ 牟岐町海の総合文化センター / モラスコ牟岐

牟岐町の伝統文化である「あんどん」を作成するワークショップで、毎年多くのサマースクール参加者にとって思い出深いプログラムとなっています。あんどんの側面に貼る和紙に、墨汁や水彩絵の具を使用してそれぞれの思いを自由に表現しました。木枠作成は地元のあんどんの会の方の手解きを、また、水彩画の書き方は町内の絵画講師の方にご指導していただきました。皆思い思いに作り上げたあんどんは、その日の夜に宿舎近くの海岸沿いに設置し、その柔らかな光に包まれながらリフレクションを行いました。



その他企画

開会式

日時／ 8月16日(水)

場所／ 牟岐町海の総合文化センター

サマースクールの開催にご尽力いただいている徳島県や牟岐町の関係者の方々を迎え、サマースクールの開会を宣言しました。「コンフォートゾーンから飛び出す大切さ」など、このサマースクールにかけける主催者や共催者の方々の熱い思いをうかがった後、高校生にもこの7日間に対しての決意を述べてもらいました。ワクワクと緊張が入り交じった式の最後には、参加者全員で風船を膨らませ、今日から始まる7日間への期待と共に飛ばしました。

アイスブレイク

日時／ 8月16日(水)

場所／ 牟岐町海の総合文化センター

開会式によって膨らんだ期待と緊張を胸に、これからの一週間で共に過ごす仲間たちとの結束を深める企画を行いました。まず軽い自己紹介の後、レゴタワーを通した高校生参加者、大学生メンターの間による楽しくアクティブなコミュニケーションで緊張をほぐしました。次にお互いのことをより深く知るきっかけを作るために、サイコロに自分を表現する絵を描いて、その内容について順番に話してもらいました。

HLAB へようこそ

日時／ 8月16日(水)

場所／ 牟岐少年自然の家

名称の通り、サマースクールに来たばかりの高校生に、HLABという団体の歴史や、プログラムのコンテンツ、それを作っている人について知ってもらうために準備された企画です。2011年から6年間、この組織が歩んできた道のりを説明した後に、この7日間における熱意や意気込みを各大学生運営メンターから高校生に伝えました。最初は初めて出会う人ばかりでどこか落ち着かない様子の高校生でしたが、その後のアイスブレイクでは気さくに話しかけてくれる大学生と言葉を交わし、徐々に打ち解けていきました

知事セミナー

日時／ 8月17日(木)

場所／ 牟岐町海の総合文化センター

飯泉嘉門知事にお越しいただき、「徳島県と地方創生」をテーマにご講演いただきました。消費者庁誘致や阿波藍などの伝統産業の発信など、県外の生徒も耳にしたことのある話題から、県内のブロードバンド普及率の高さを活かした首都圏からのサテライトオフィス誘致など、多岐にわたる未来志向の政策について熱く語られる知事の姿に、皆圧倒されながら聞いていました。講義後には質疑応答の時間があり、徳島県としての取り組み以外にも、知事の高校時代についての質問も飛び出し、知事のお人柄にも触れることができた貴重な時間となりました。

大学生フリーインタラクション

日時／ 8月17日(木)・18日(金)

場所／ 牟岐少年自然の家 / 牟岐町海の総合文化センター

高校生が話を聞いてみたい大学生のところに行き、自由に会話をする企画です。高校生には予め、各大学生のこれまでたどってきた人生についてアンケートをとった「ロードマップ」と呼ばれる資料を配布し、話をしてみたい大学生を決めてもらいました。自分の興味のある学問をしている大学生と話してさらに興味を持った生徒や、逆に今まで考えもしなかった学問に興味を持つことができた生徒がいました。皆収穫は様々で、新たな気づきが生まれる機会となりました。

海外大学生企画

日時／ 8月18日(日)

場所／ 牟岐少年自然の家

高校生と大学生がペアになって、日本と海外の大学の違いについて英語を使いながら話し合いました。多くの高校生にとって英語のみを使つてのコミュニケーションはハードルの高い挑戦となりましたが、皆限られたボキャブラリーで自分の思いや考えを伝えようと、真剣に相手に向き合っていました。高校生にとっては、歳は近くても、普段は遠く感じる大学生の体験談を間近で聞くことができた貴重な時間になりました。



その他企画

タレントショー

日時／ 8月19日（土）

場所／ 牟岐町海の総合文化センター

参加者同士がそれぞれの特技・才能 (Talent) を披露する企画です。セミナーやリフレクション等では知ることのできない、お互いの新しい一面を発見できる機会となっており、その後のコミュニケーションのきっかけ作りにもなります。サマースクールで出会った仲間と今年は高校生はもちろん、海外メンターも積極的に参加し、知らない一面をたくさん知ることが出来ました。

町の人交流会

日時／ 8月19日（土）

場所／ 牟岐町海の総合文化センター

町の人交流会は「HLAB TOKUSHIMA はこの夏が終わった後も帰ってこれる場所」である、ということを参加者に伝えるために作られた今年初のプログラムです。2014年の開催初年度よりサマースクールに関わってくださっている牟岐町の方々、過去のサマースクール参加者を迎え、交流を行いました。今年の参加者にとってはサマースクールの裏に隠れる多くの人々の努力や思いを知り、サマースクールについての理解を深めることのできる時間となりました。

キャンプファイヤー

日時／ 8月19日（土）

場所／ 牟岐少年自然の家 キャンプファイヤー場

サマースクールの中で最も「夏らしい」プログラムといえばこのキャンプファイヤーでしょう。最初はフォークダンスで参加者同士の距離を縮め、メンバー同士を知るための〇×クイズなども行いました。日が暮れて辺りが暗くなってからは火を囲みながら高校生・大学生がスピーチを行い、このサマースクールへかける想い、自分自身の日常生活の葛藤などを語り合いました。仲間の内なる悩みを知り、ここで出会った仲間は友達を超えた家族のような存在である、ということを参加者それぞれが感じた時間でした。

オフィスアワー

日時／ 8月20日（日）

場所／ 牟岐町海の総合文化センター

高校生が海外メンターのいるセミナー教室を自由にまわることのできる時間です。セミナー受講中に生じた疑問を解消してもらったり、受講していなかったけれど興味のあるセミナーの内容を掻い摘んで教えてもらいました。セミナーの内容には大学生が学ぶような難解な概念なども含まれていましたが、そんな難題にも音を上げることなく、高校生は積極的に海外メンターの話聞いていました。

カツオのたたき

日時／ 8月21日（月）

場所／ 牟岐町海の総合文化センター

牟岐町婦人会をはじめとする牟岐町の方々のご協力のもと、水揚げされたばかりの新鮮なカツオを使って、その日の昼食のメインディッシュとなるカツオのたたきを作りました。出刃包丁でカツオをおろし、藁で炙り、私たちが普段見慣れている料理の形にするまでは大変でしたが、参加高校生と大学生、地元の方々が一つになり、一生懸命にカツオを炙り調理をする姿が印象的でした。

閉会式

日時／ 8月22日（火）

場所／ 牟岐町海の総合文化センター

7日間にわたるプログラムもいよいよ終わりを迎えます。寂しさや名残惜しさが募るなか閉会式が行われました。開会式では緊張した面持ちだった高校生も閉会式では自信と期待に満ち溢れていました。高校生にはサマースクールを修了した証として修了証書が授与されました。高校生から大学生への感謝の気持ちや未来への誓い、大学生から高校生へのエールなどサマースクールを通して感じたそれぞれの想いが共有された濃密なひとときでした。

リフレクション

日時／ 期間中全日程

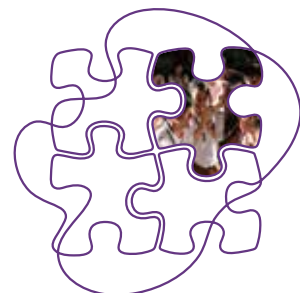
場所／ 牟岐少年自然の家

リフレクションは、毎晩ハウスごとに分かれ、1日のプログラムの振り返りや、期間全体を通して感じたことを話し合う時間です。ハウスのメンバーの中で、その日の反省をして次の日につなげる目標を立てたり、それぞれが自分自身の長所や短所について考えました。この時間を通して今まで、自分に、そして他人に真剣に向き合うという機会が少なかった高校生は沢山の気づきを得たそうです。普段なかなか口に出すことのできない自分の悩みや本音を、正直に他人に共有することを通して、自己理解を深めたり、お互いの絆を深める時間となりました。



HLAB MIYAGI-ONAGAWA 2017

"Linking to your Future." すべては、未来につながっている。
千年に一度のまちづくりが行われる女川。世界と出会い自分と対話する7日間を。



Daily Report: MIYAGI-ONAGAWA

Day 1: 8 月 14 日

1 日目には参加高校生計 60 名が宮城県女川町に到着し、素晴らしい開会式から今年のサマースクールが始まりました。開会式では運営委員長と海外メンター代表がスピーチを行ったほか、女川町長 須田様と特定非営利活動法人アスヘノキボウ代表理事 小松洋介様からご挨拶をいただきました。参加者全員の士気があがる充実した式となりました。式後には高校生の緊張をほぐすためのアイスブレイク・アクティビティーを行い、お互いのバックグラウンドを共有しました。



Day 2: 8 月 15 日

2 日目は、HLAB のメインコンテンツの一つである海外メンターによるセミナーから始まりました。それぞれの大学での専攻や趣味などをもとに制作されたセミナーは、どれも興味深い内容になっていました。英語が苦手な高校生もいましたが、皆夢中になって話を聞いていました。セミナー後は、町の方々と交流しながら女川町を探索する「Discover ONAGAWA」という企画を行いました。3 つのグループに分かれ、女川町の方々に教えていただきながら石饅作り体験、スペインタイル作り体験、スプレーアート体験をしました。お仕事の話だけでなく、女川町がどのようにして震災から復興を果たしたのかといったお話も伺うことができ、とても貴重な経験となりました。夜にはフリーインタラクティブを行い、女川町までお越しいただいた社会人のみなさんにキャリアについて語っていただきながら、進路相談に乗っていただきました。様々な業界で働く社会人の方々と交流できる機会は、参加した高校生に自分達の将来について考えるきっかけをもたらしました。



Day 3: 8 月 16 日

3 日日も 2 日目同様セミナーから始まり、その後は高校生や大学生が自分の得意なことを発表する企画「タレントショー」を行いました。今年のタレントショーのサブタイトルは「SA ☆ RA ☆ KE ☆ DA ☆ SE」。自分の可能性をこのタレントショーで全てさらけだして楽しもう、という意味が込められています。ダンス、歌、ピアノ演奏を始め、空手や書道パフォーマンスなど盛りだくさんなタレントショーになりました。タレントショーの後は、「ZINSEI シェアリング」という企画を行いました。ここでは、大学生それぞれが自分の人生を高校生と共有し、どのような紆余曲折を経て今の彼らがいるのかを話しました。



Day 4: 8月17日

4日目は3日間続いたセミナーの最終日でした。セミナーを通して、将来の進路に悩んだり刺激を求めている高校生たちの手助けができていれば幸いです。セミナー後はアゴス・ジャパン代表取締役 横山匡様、フリーアナウンサー 佐藤千晶様をゲストとしてお迎えし、自己分析ワークショップを行いました。この企画では自分の過去を振り返るなかで、本当の自分の姿を見つめ直しました。その後、2日目にも行ったフリーインタラク션을行いました。自己分析ワークショップを通して自分の強みや改善できるところを知った高校生にとって、今回のフリーインタラク션は2日目以上に刺激的なものとなりました。



Day 5: 8月18日

5日目は、この4日間ずっと影響を受ける側だった高校生が、逆に影響を与える側になる新しい企画を行いました。ここでは女川町の中学生を迎え、高校生はこの4日間で学んだことや進路のことを中学生と共有しました。自分が学んだことや考えていることを言葉にして人に伝えたことは、それぞれの思考や考えを深化させる良いきっかけとなりました。企画後は新たな滞在先である松島に移動し、バーベキューやキャンプファイヤーなどを行いました。リフレクションを暗がりのテントで行うなかで、大学生と高校生の距離は一層深まりました。



Day 6: 8月19日

6日目は自分たちで火を起こして朝ごはんを作るところから始まりました。朝食後には「震災ウォークラリー」という企画を行い、東日本大震災による津波の影響を大きく受けた松島を歩きました。松島を実際に歩きながら、住民の方々から震災での体験を直接お聞きしました。縄文歴史資料館に移動してからは縄文時代について学び、勾玉作りなどを体験しました。縄文人の暮らし方から津波対策の教訓が得られることなどを知ることができ、その場にいた全員のなかで新しい学びの芽が生まれました。松島を後にして女川に戻ってからは、HLABのメインイベントの一つであるフォーラムを行いました。



Day 7: 8月20日

7日目はHLAB MIYAGI-ONAGAWA 2017の最終日です。閉会式はこの1週間を振り返るエンディングムービーの上映から始まり、その後ハウスごとにメンターが高校生に修了証書を授与しました。互いに感謝の気持ちを述べたり、高校生が1週間で学んだことを発表したり、とても濃厚な最後の時間を過ごすことができました。



ワークショップ・その他企画



開会式

日時／ 8月14日（月）

場所／ 女川まちなか交流館ホール

始まりを象徴する開会式。式典は運営委員長の坂田悠人と、海外メンターを代表としてタルハ・エルビッリ、高校生代表として土屋志野さんによるスピーチから始まり、主催・共催及び協力団体の皆様からは、宮城県教育委員会理事兼教育次長の西村晃一様、女川町長の須田善明様、そして特定非営利活動法人アスヘノキボウ代表の小松洋介様にもご挨拶頂きました。閉会の際にはそれぞれが風船に想いを込めつつ膨らませ、一斉に宙へと放ちました。

アイスブレイク

日時／ 8月14日（月）

場所／ 女川まちなか交流館ホール

7日間寝食を共にする仲間たちと初めて出会う、サマースクール初日に行われた企画です。本企画は英語での自己紹介から始まり、3種類の頭と体を使ったアクティビティを通じて自分を表現していきました。企画緊張感漂う場の雰囲気、最後には、全員で揃えた手拍子でこれから始まる7日間への期待を高めあいました。

Discover 女川ワークショップ

日時／ 8月15日（火）

場所／ 女川まちなか交流館ホール

女川フューチャーセンター Camass

サマースクールの開催地である女川町について「知る」ためのアクティビティを行いました。前半のパートでは女川町で活躍する起業家のもとで、スペインタイル作り・せっけん作り・スプレーアートを体験しながら、起業に至った背景や復興に向けた町づくりについてのお話を伺いました。後半のパートでは与えられた謎を解きながら女川町の中心商店街である「シーパルピア女川」を歩き、女川町の魅力に触れました。

自己分析ワークショップ

日時／ 8月16日（水）

場所／ 女川まちなか交流館ホール

サマースクール開始から3日目に、アゴス・ジャパンの横山匡様を講師に、フリーアナウンサーの佐藤千晶様をゲストスピーカーとして迎え、自己分析ワークショップを行いました。講師による講演やゲストを交えた対談を聞いたあと、ワークシートを用いた高校生同士のペアワークを通して、参加高校生は改めて「自分」を見つめ直し、じっくりと自己分析ができました。

ホームカミングデー

日時／ 8月16日（水）

場所／ 女川フューチャーセンター Camass・女川小学校

サマースクール過去参加者を対象としたホームカミング企画が、今年はいじめて女川で行われました。町めぐり、食べ歩き、今年の参加者との交流。思い思いの時間を過ごした参加者は、最後に夕食を食べながらサマースクール後のそれぞれの時間を語り合いました。大学に進んだ人、就職した人、再チャレンジに向けて日々頑張っている人。「また繋がりたいね!」と帰り際に再会を誓い合った参加者の顔は、晴れやかで希望に溢れていました。

タレントショー

日時／ 8月16日（水）

場所／ 女川小学校

サマースクール3日目に開催された企画、タレントショーは今年も大盛況でした。“SA ☆ RA ☆ KE ☆ DA ☆ SE”をテーマに参加者は新しいことに積極的に挑戦し、参加者は各々の自分らしさを「さらけ出」しました。ダンスや歌の披露だけでなく、書道パフォーマンスを行ったり、東日本大震災の被災者に向けて皆で肩を組みながら追悼歌を歌ったり。最後には高校生が海外大学生にソーラン節を教え、全員で踊りました。終わったあとは皆一致団結していました。



向学館ワークショップ

日時／ 8 月 18 日（金）

場所／ 女川まちなか交流館ホール

この企画では、HLAB 参加高校生が女川町の現地中学生とのフリーインタラクティブ形式による交流を通して、進路、夢、悩み事などをざっくばらんに共有しました。参加高校生の「勉強の仕方」や「進路の決め方」、またそれまでの「一風変わったバックグラウンド」などは、中学生にとって大きな刺激となりました。高校生にとっても、フリーインタラクティブのゲストを模して自身を語ることで、自己内省に繋げることができました。本企画は、女川町に“ピアメンタートシップ”のアイデアを浸透させるいい機会となりました。



防災ウォークラリーワークショップ

日時／ 8 月 19 日（土）

場所／ 松島自然の家・大高森

6 年以上たった今でも被災地には、震災の爪痕が残っています。この企画では、2011 年の大震災について学ぶと同時に、地震や津波を繰り返す土地に生きた人々が、東松島の地理的な特徴をどのように防災に活かしてきたかを、自分たちの足で回り、自分たちの目で見て学習しました。大高森からの素晴らしい景色が持つ防災としての意味、そして、先人の経験に学び、次の世代に伝えゆく我々の責任について考える機会となりました。



閉会式

日時／ 8 月 20 日（日）

場所／ 女川小学校体育館

怒涛の 7 日間を締めくくる閉会式には、宮城県教育庁生涯学習課課長の新妻直樹様、女川町長の須田善明様、海外メンター代表としてタルハ・エルピッリ、高校生代表として石原桃子さん、そして最後に運営委員長の坂田悠人によるスピーチが行われました。また式典途中では、参加高校生がそれぞれのハウスの大学生へ感謝の気持ちを伝える為に、サプライズで歌やメッセージの読み上げを行い、会場中が感動の渦に包まれました。



HLAB 2017 サマースクール報告会

HLAB 2017 サマースクール報告会をディブリーフィング期間中の8月25日に開催しました。ハーバード・ビジネス・スクール教授、HLAB 理事の竹内弘高氏に基調講演をしていただきました。また、各地域の高校生、日本人大学生、海外大学生代表一名ずつから期間中に感じたことやHLABへの想いについてスピーチしてもらいました。また、HLABの今までとこれからの活動について2017年度学生代表の小林直貴とHLAB創設者の小林亮介からお話しさせていただきました。今年度の参加者をはじめとし、多くの支援者や関係者、卒業生やそのご家族に参加していただきました。サマースクールが終わって間もない中で催されたこの会は期間中の熱気を帯びたままに行われ、会場内は高揚と活気に満ちていました。こうして盛況のうちにHLAB 2017は閉幕いたしました。



大学生メンター向けプログラム

オリエンテーション期間では、4地域の日本人大学生と海外大学生全員が東京に集い、サマースクール本番に向けての2泊3日の直前合宿を行います。また、ディブリーフィング期間は各地域のサマースクールの終了後に再び大学生全員が集まり、4泊5日の事後合宿を行います。これらは「大学生による」、「大学生のための」プログラムであり、「コミュニケーションをデザインする」という視点からプログラムをデザインしました。

-Seminar Prep-

海外大学生と日本人大学生が初めて対面で会うことができるのがこの期間です。今まで準備してきたセミナーを実際に行ってみる、という時間を設計しました。高校生役として参加した大学生からフィードバックをもらうことで、サマースクールの準備に向けたより深いコミュニケーションが生まれました。

-Welcome Dinner-

海外大学生が日本にやってきたこととサマースクール期間がついにスタートすることを歓迎し、オリエンテーション初日に4地域の参加者全員で夕飯を食べました。料理を片手に様々な会話が自然とあちこちで起こり、会場内は高揚感に溢れていました。カジュアルな場でのやり取りは人のつながりをより強くします。活気付いた良いスタートを切ることができました。

- 裏千家 茶道体験 -

大学生全員で、裏千家の青年会にご協力いただき茶道体験をしました。茶の湯の精神に触れ日本文化を学ぶという1つの経験を「共有」することができました。また、互いに点てた茶を出し合うことで、精神的につながるという側面で、コトバを紹介するのではない新しい形のコミュニケーションが形成されました。

-Debriefing-

今年度のHLABが始まって、一番大きな目的であるサマースクールが終わった段階で、来年に活かせる反省点を振り返りました。様々な視点から見た今年度の活動から、来年への課題もたくさん見えました。

- 自由時間 -

ディブリーフィング期間は、アンデザインなどところで生まれたコミュニケーションも重要でした。長時間かけて作り上げてきたものが出来上がって終わったタイミングで、自分にとってHLABが何であったかを仲間と語る時間となりました。

-Retreat-

全員で山梨の勝沼へ行き、丘の上のテラスで町を見下ろしながらドリンクを片手に自由に語り合う時間をつくりました。様々な話をする中で、自然とサマースクールを振り返るやり取りがあちこちで見られました。

コミュニケーション・
デザインされた空間



嵯峨野高校オプショナルトリップ

京都嵯峨野高校の協力の下、京都オプショナルトリップを毎年開催しています。高校生が海外大学生や日本人大学生との交流を通してグローバル社会への理解を深めることを目的とした合宿プログラムであり、本年度は8月26日、27日にかけて行われました。

26日は合同夕食会の場で嵯峨野高校校長より挨拶を頂いた後、ハーバード大学院を卒業し、現在は日本の投資会社で働いていらっしゃるリン・レイチェル氏を講師にお招きし、彼女がどのように現在のキャリアを形成したのか、また、現在どんな夢を描いているかについてお話していただきました。その後は、海外大学生、運営メンバー、そして参加高校生が「夢とキャリア」をテーマにしてフリーインタラクションを行い、講演で聞いたことをもとにそれぞれが思い思いに話を膨らませていました。

翌日の27日は、全参加者が5グループに分かれ、高校生主導で京都各地を案内してもらいました。ここでは、グループごとにより親交を深めると同時に、日本を代表する観光地を巡るなかで「京都を訪問する外国人リピーター観光客を増やす方策」について考えてもらい、その後のグループディスカッションの材料を探しました。各グループはそれぞれのアイデアで、テーマについて英語によるプレゼンテーションを行いました。



Workshop for Workshop

本企画は、サマースクールにおける企画作りを効率よく進めるべく、ワークショップの作り方を体系的に学ぶことを目的とした、2017年度より催行された企画です。

本企画の担当者が「ワークショップデザイン論—創ることで学ぶ—；山内祐平，森玲奈，安斎勇樹；慶應義塾出版会；2013」という著書を読み込み、その内容説明用スライドの作成、また実際に運営メンバーが書き込むことによって企画作成の手助けとなるワークシートの作成を行いました。2017年度は6月25日に小布施の事前合宿にて合宿参加者に対して、及び7月2日にHLABのオフィスにて勉強会という形で運営メンバーの希望者に対して本企画を開催しました。参加者からは「実りのある企画であった」という声が多く寄せられました。2度の開催を通じて本企画の重要性及び必要性が明確になりました。

来年度以降、企画を作っていく際の道しるべとして、来年度の運営メンバーに対して全体研修などの機会を通してスライドによる内容の説明を行い、ワークシートの作成を通じて企画の質の向上、ひいてはサマースクール全体の質の向上を目指します。



Voice



藤井 彩絵

SAE FUJII

HLAB TOKYO 2014 アラムナイ
HLAB OBUSE 2017 メンター
慶應義塾大学 法学部

「こういうプログラムを作りたい」という情熱は漠然としたものです。この情熱を、どのように整理したら実際の形に落とし込めるのか、どのように伝えたら伝わりやすいのか。普段Whatの部分を考えがちなか、Howを学ぶ機会となりました。今振り返ると、この先の作業での大きなヒントがたくさん散りばめられていたワークショップだったなと感じています。



高校生選考 / 参加者について

-選考スケジュール-

4月15日(土):募集開始

5月23日(火)23:59:Early Action(1次)締切

6月4日(日):Early Action(1次)合格者発表

6月12日(月)23:59:Regular Decision(2次)締切

7月2日(日):Regular Decision(2次)合格者発表

-応募資格-

1.2017年5月1日時点で、日本・海外の高等学校、高等専門学校、インターナショナルスクールに在籍する高校生であること。

※海外のインターナショナルスクールや現地校に通われている方で、入学・進級・卒業が一般的な時期と異なる場合、info@h-lab.coまでお問い合わせください。

2.参加を希望するプログラムの全日程に参加可能であり、かつ参加にあたり保護者の同意を得られていること。

※本プログラムは合宿形式であり、途中参加はいかなる理由であっても認められません。

3. 期間中の活動、事前・事後活動に責任をもって取り組めること。

※プログラムの期間前後に、課題を課すことがあります。

※過去に本プログラム(東京、小布施、徳島、宮城女川)に参加された方の再応募は4地域共通して受け付けておりませんのでご了承ください。

-応募方法-

まずはmy.HLAB (<https://my.h-lab.co/>) で必要事項をご登録の上、アカウント作成を行ってください。

その上表示されるアプリケーションフォームより、必要事項を記入、選考課題へ回答の上。ご応募ください。応募後、受領の確認メールをお送りいたします。応募から24時間経過後も連絡のない場合、info@h-lab.coまでご連絡ください。

-選考課題-

4地域の運営委員会がプログラムに求める高校生像を策定し、以下のように選考課題が作成されました。

1. あなたに影響を与えた人は誰ですか? その人から、どのような影響を受け、何を学んだか教えてください。

Who has inspired you in your life? What kind of inspiration did you get and what did you learn from that person?

2. あなたが今一番変えたいことは何ですか? それをどう変えたいですか? あなたの現状と理由を踏まえて教えてください。

What do you want to change the most right now? How do you want it to be changed? Please explain based on your current situation and reasons.

3. サマースクールに参加したい理由を教えてください。

Why do you want to attend HLAB summer school program?

4. 自由課題(任意)

ご自身をアピールできるものとして、文章を記入、あるいは画像や動画などの添付ファイルを提出してください。



-参加人数-

参加高校生 240名

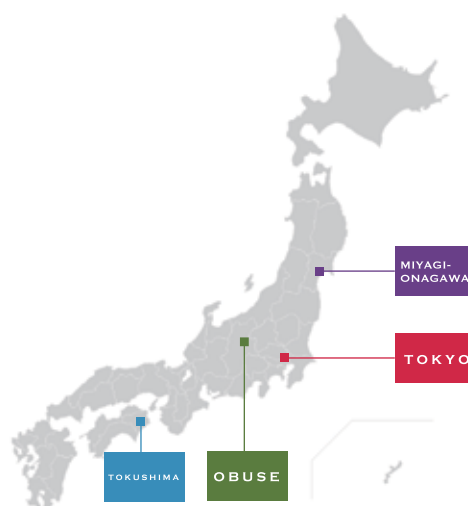
TOKYO :80名 OBUSE :50名 TOKUSHIMA :50名 MIYAGI-ONAGAWA :60名

-地域別各種人数内訳-

TOKYO		OBUSE		TOKUSHIMA		MIYAGI-ONAGAWA	
性別	男 37人 女 43人	性別	男 22人 女 28人	性別	男 16人 女 34人	性別	男 26人 女 34人
学年	1年 24人 2年 40人 3年 16人	学年	1年 17人 2年 18人 3年 15人	学年	1年 21人 2年 11人 3年 8人	学年	1年 25人 2年 25人 3年 10人
学校	公立 13人 私立 67人	学校	公立 24人 私立 26人	学校	公立 23人 私立 26人	学校	公立 11人 私立 49人

-全地域出身地内訳-

東京	74人	静岡	4人	奈良	1人
徳島	31人	愛知	4人	広島	1人
長野	25人	香川	3人	愛媛	1人
神奈川	23人	福岡	3人	長崎	1人
宮城	16人	三重	2人	熊本	1人
埼玉	11人	岡山	2人	海外	4人
大阪	8人	沖縄	2人		
兵庫	8人	福島	1人		
千葉	6人	新潟	1人		
群馬	5人	京都	1人		



my.HLAB

このサイトはHLAB への応募（アプリケーション）サイトです。

将来的には、HLAB のオンラインコミュニティサイトとして以下の機能を利用することができるようになります。

- ① 各地域の HLAB からの情報アップデートの閲覧
- ② HLAB 参加決定者のための開催期間前の連絡・交流
- ③ HLAB 参加者 (OB/OG) のための SNS 機能

my.HLABホームページ (<https://my.h-lab.co/>)



アンケート結果

- 概要 -

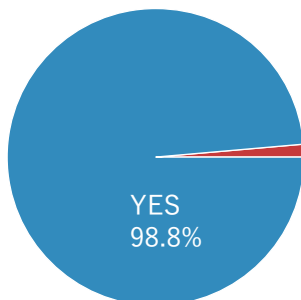
サマースクール期間後に高校生参加者の意識の変容を調べる為、選択式のアンケートを実施しました。

*日時：サマースクール期間後 1 週間以内

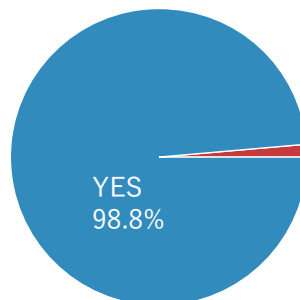
*対象：HLAB 2017 サマースクールに参加した高校生参加者 240 名

- 結果 -

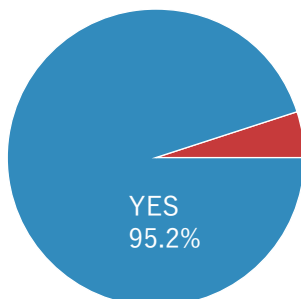
Q1. 海外で学ぶことに興味が湧いた



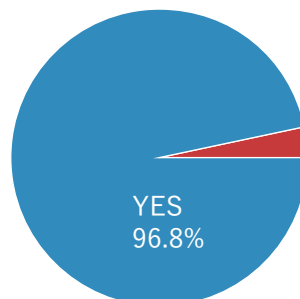
Q2. 今後（交換）留学に行ってみたいと思った



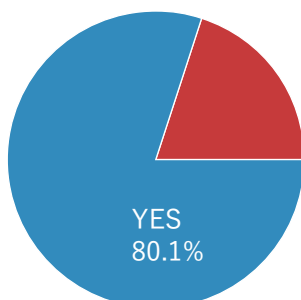
Q3. HLAB で参加した町について知っていた



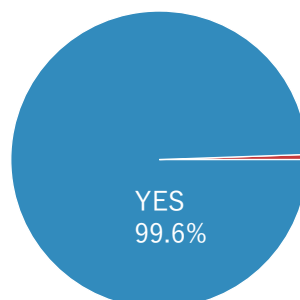
Q4. HLAB を経て、参加した町について知ろう・関わろうと思った



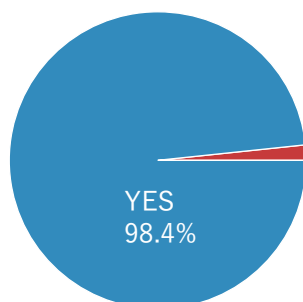
Q5. 英語を使うことにためらいや恐れはなくなった



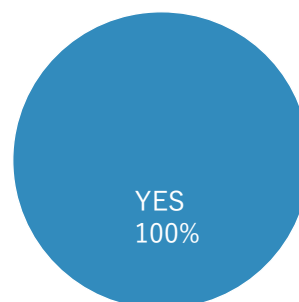
Q6. 寝食を主にすることで学びがあった



Q7. 家族以外の人と宿泊しながら生活することに意義を感じた



Q8. HLAB を友人に勧めたいと思った



- 所感 -

参加高校生は、日本人大学生とだけではなく、企画運営に参加した海外大学生と交流する中で、海外での学習への関心を高めました。実際に、英語を話すことへの恐れが減り、海外での学習へのモチベーションが高まっているというアンケート結果が出ています。(Q1, 2, 5)

加えて、初めて会った人たちと寝食を共にし、少し年上の先輩から、従来の生活では得られない学びを得た高校生が多く見受けられました。これは参加者の皆様が、1日完結型や通い学習型のプログラムでは得られない学びを体感しているということを表しており、同様の多くの他プログラムと比較しても優位性を誇る点です。(Q6, 7)

また、HLAB サマースクールに参加する前は参加地域のことをよく知らなかった高校生も、約1週間後には参加地域についての知識を蓄え、今後「参加地域を深く知りたい / 還元したい」という思いを強めました。(Q3, 4)

以上から分かるように、HLAB 2017 サマースクールは、HLAB のビジョン「レジデンシャルエデュケーション」「エデュケーショナルツーリズム」「ローカルリバイタリゼーション」の3つを体現したプログラムでした。



参加メンターについて

HLAB TOKYO 2017

宇都木 大樹	国際基督教大学	Abdullah Eryigit	Technical University Delft
大野 真菜美	慶應義塾大学	Anh Tran	Dickinson College
川勝 博	Haverford College	Anna Vladymyrska	Columbia University
倉田 芽衣	Grinnell College	Annelies van der Meij	Maastricht University
後藤 真歩	早稲田大学	Austin Rahmin	University of Pennsylvania
小林 直貴	東京大学	Binh Nguyen	Tufts University
佐藤 由依	東京大学	Danny Le	University of Southern California
篠田 恭寛	東京工業大学院	Franklin Forbes	Columbia University
新間 洸太郎	東京大学	Jiachen Feng	Columbia University
鈴木 真由	一橋大学	Justin Lixie	Oberlin College
高橋 朱子	慶應義塾大学 / Sciences Po	Kevin Wong	University of California, San Diego
田中 美樹	国際基督教大学	Krishana Raghubeer	Barnard College
田辺 伶奈	慶應義塾大学	Luke Zhan	Columbia University
塔下 剛至	慶應義塾大学	Miko Darmanin	University of Malta
富岡 渉	一橋大学	Peter Youn	Harvard University
豊福 明日香	北海道大学	Samantha Morgan	Columbia University
中島 陽斗	東京大学	Shudi Pan	Grinnell College
中野 瑛登	広島大学	Sien Liu	Ghent University
丹羽 慶太	東京大学	Yotam Deree	Columbia University
野崎 櫻	早稲田大学	Yuito Ishikawa	The College of William and Mary
埴 桃子	早稲田大学		
林 苑芳	武蔵野美術大学		
菱田 吾朗	京都大学	荒井 百子	早稲田大学
星野 新	早稲田大学	稲垣 日菜子	慶應義塾大学
松本 佳恋	Stony Brook University	小池 隆斗	慶應義塾大学
丸山 夏基	慶應義塾大学	西條 快	早稲田大学
矢沢 彩芽	Mount Holyoke College	畠中 翔一	慶應義塾大学
山田 彩加	国際基督教大学	水口 南美	聖心女子大学
藁谷 翔一郎	早稲田大学	水谷 優奈	青山学院大学

HLAB OBUSE 2017

浅倉 颯人	東京理科大学	Akari Furukawa	Harvard University
荒井 芙海	筑波大学 / Middlebury College	Anton Vatev	University of Bath
石村 夏奈子	慶應義塾大学	Xinyi Qu	Shaoxing University
伊東 菜々美	Sciences Po	Erin Ginventer	Columbia University
河田 英貴	慶應義塾大学	Kathryn Kostadinova	Ludwig-Maximilians-University Munich
酒井 良	慶應義塾大学	Kosta Karakashyan	Columbia University
櫻井 浩介	信州大学	Lora Beltcheva	Columbia University
周 理奈	早稲田大学	Momone Ozawa	McGill University
高波 景	University of California, Berkeley	Philipp Schreiber	University of York
堂前 ひいな	大阪大学	Sabrina Chern	Harvard University
利光 泰徳	東京大学	Samantha Frühwirth	Columbia University
奈良 優作	明治学院大学	Steven Ballew	Columbia University
林 美穂	慶應義塾大学		
福田 健太	東京大学		
藤井 彩絵	慶應義塾大学		
古川 拓磨	東京大学		
古田 南菜子	York University	岩穴口 智彬	信州大学
松田 実希	武蔵野美術大学	金澤 尚子	慶應義塾大学
百瀬 あすみ	一橋大学	木口 幸祐	上越教育大学大学院
森本 奈緒美	信州大学	後藤 志織	Carroll University
諸田 絢香	国際基督教大学	佐藤 康司	東京大学
和久井 沙良	東京藝術大学	鈴木 出帆	Northwestern University



HLAB TOKUSHIMA 2017

秋月 良樹	立命館大学	Flora Li	Harvard University
石川 小百合	大阪大学	Gabriela Bonfiglio	The University of Hong Kong
井上 沙耶	早稲田大学	Guy Hughes	University of Oxford
遠藤 玲希央	東京大学	Iris Feng	Harvard University
大内 真	一橋大学	Jaden Freeze	Harvard University
大村 崇寛	Grinnell College	Jordan Hale	Centre College
大山 晏奈	国際基督教大学	Laura Dabalsa	Columbia University
尾崎 華恵	Washington and Jefferson College	Marina Hostrop	Wellesley College
片山 美優子	慶應義塾大学	Qingyang Mu	Colby College
川端 明日香	徳島大学	Yuqing Liu	Sophia University
栗山 愛由	早稲田大学	Rini Halder	Harvard University
齊藤 麻衣	青山学院大学	Robert Chen	Harvard University
嶋津 慶紀	東京大学	Sitong Xu	Pomona College
田中 凌	鳴門教育大学	Zachary Sebek	Tufts University
中村 泰平	早稲田大学		
中山 宗一郎	東京大学大学院		
野尻 悠貴	国際基督教大学		
則本 菜奈子	DePauw University		
橋本 麻莉子	関西学院大学		
本田 達也	関西学院大学		
森田 彩花	津田塾大学	金子 英里香	一橋大学
山原 一晃	京都大学大学院	下松 由季	東京大学
山本 葵	Wellesley College	千葉 馨	慶應義塾大学
横尾 春菜	九州大学	山崎 亘祐	慶應義塾大学

HLAB MIYAGI-ONAGAWA 2017

岩永 理華子	国際基督教大学	Aku Acquaye	Barnard College
植田 陽	慶應義塾大学	Alissa Hansford	Tufts University
宇都宮 くるみ	慶應義塾大学	Christina Chen	Yale University
大谷 萌	Macalester College	Claire Kowalewski	University of Pennsylvania
大野 友	早稲田大学	Ekrem Altun	Rotterdam University of Applied Sciences
岡田 光太郎	愛媛大学	Gabrielle Fitzgerald	Columbia University
加藤 里彩	東北大学	Han Wen Zhang	Columbia University
北村 萌	New York University	Joanna Hawthorne	SOAS, University of London
小林 慶	東北大学	Joo Hyun Lee	Columbia University
嵯峨 祥太郎	金沢大学	Katherine Smith	Columbia University
坂田 悠人	慶應義塾大学	Marco Franzoi	University of York
清水 幸一	創価大学	Miriam Weiss	Tufts University
杉浦 愛来	University of Toronto	Moe Sabai	Grinnell College
関屋 徹耶	東京大学	Roger Zou	Harvard University
高橋 健太	既卒	Talha Erbilli	The Hague University of applied sciences
田中 絹子	慶應義塾大学		
成田 有希	津田塾大学		
平川 奇跡	University of Cambridge		
牧浦 蔵	University of Edinburgh	有川 創	NIC International College in Japan
村崎 樹江里	慶應義塾大学	白柳 璃音	King's College London
森永 真珠	Hollins University	中岡 航太郎	関西学院大学
山本 龍起	首都大学東京	野一色 遥花	Tufts University
與田 高晃	慶應義塾大学	半田 竜樹	早稲田大学



参加メンターについて

-メンター出身大学一覧(世界11ヶ国, 全74大学) -

Barnard College	Haverford College	University of Pennsylvania	青山学院大学	東京工業大学院
University of Bath	Hollins University	Pomona College	愛媛大学	東京大学
University of California, Berkeley	The University of Hong Kong	Rotterdam University of Applied Sciences	大阪大学	東京大学大学院
University of California, Davis	King's College London	Science Po	金沢大学	東京理科大学
University of California, San Diego	School of Oriental and African Studies (SOAS), University of London	Shaoxing University	関西学院大学	東京藝術大学
University of Cambridge	Ludwig-Maximilians-University Munich	University of Southern California	九州大学	東北大学
Carroll University	Maastricht University	Stony Brook University	京都大学	徳島大学
Centre College	Middlebury College	University of Toronto	京都大学大学院	鳴門教育大学
Colby College	University of Malta	Tufts University	慶應義塾大学	北海道大学
Columbia University	Macalester College	Washington and Jefferson College	国際基督教大学	武蔵野美術大学
Technical University Delft	McGill University	Wellesley College	首都大学東京	明治学院大学
Dickinson College	Mount Holyoke College	The College of William and Mary	上越教育大学大学院	立命館大学
The University of Edinburgh	New York University	Yale University	信州大学	
Ghent University	Northwestern University	University of York	聖心女子大学	
The Hague University of applied sciences	Oberlin College		筑波大学	
Harvard University	University of Oxford		津田塾大学	



メンター研修

運営メンターである大学生が企画・参加した各種の研修内容について紹介します。HLAB で蓄積されたノウハウをベースに、ピアメンターとしての基本的な態度、高校生の導き方から、リーダーシップに至るまで幅広く習得しました。

分野	研修のゴール	セッション
ピアメンターシップ / 対人関係構築能力	自信の信念と強み、専門分野に基づいたメンターシップビジョンを策定する	MBTI ワークショップ 他己分析ワークショップ
	高校生の動機づけを高める方法・幅広いステークホルダーとの関係構築方法を学ぶ	大学生セミナー コーチング講習 リフレクション講習 高校生対応ケーススタディ
	多様性に関する基礎知識を習得し、誰にとっても安全なサマースクールの運営方法を学ぶ	ダイバーシティ & インクルージョン 同意ワークショップ
実務執行能力 / マネジメント能力	プログラムメイキングの基礎を学び、研修企画などでの実践を通じて実働能力を高める	研修企画設計・ロジスティクス管理の実践
	HLAB での経営活動を通して、組織の財務戦略を理解し、予算管理の方法を習得する	HLAB の予算概要
	チームのマネージャーとして、組織運営の基礎や安心・安全な環境形成を実現する方法を習得する	マネジメント研修
ソーシャルアントレプレナーシップ / 社会課題・教育の再定義	教育の社会的基礎を学ぶ	自治体の教育ビジョン HLAB の社会的文脈・意義・あゆみ 科学的なエビデンスに基づく教育施策
	大学生自身が現場に足を運んで取り組みの実践例を学び、人的資本の形成を行なう	長野県小布施町フィールドワーク 自治体・教育委員会との交流 マルチセクター・アプローチ講習
	第一線で活躍する社会人と交流し、ビジョン実践の可能性を探る	フリーインタラクションへの参加 フォーラムへの参加



活動スケジュール

HLAB はサマースクールのみでなく、HLAB の活動を広げるための座談会や説明会、メンター研修においてもピアメンターシップ教育を意識した活動を行なっています。今年は全国各地で説明会を行い、高校生と大学生の対話を通して自身の学びを共有し合うことができました。メンター研修では、大学生同士がこれまで学んできた勉強や活動で得た知見を共有し、お互いに高め合いながら活動しています。

-サマースクール-

2017年8月14日-22日 HLAB TOKYO (8泊9日)
2017年8月14日-20日 HLAB OBUSE (6泊7日)
2017年8月16日-22日 HLAB TOKUSHIMA (6泊7日)
2017年8月14日-20日 HLAB MIYAGI-ONAGAWA (6泊7日)

-HLAB 2017 全国説明会-

2017年4月23日・29日・5月10日・27日・6月6日 @東京都内各所
2017年5月20日 名古屋@TECH::CAMP名古屋教室
2017年5月21日 大阪@大阪大学中之島キャンパス
2017年4月15日・16日 徳島@シビックセンター
2017年5月7日・6月4日 長野@小布施町内 施設
2017年5月13日 長野@まつもと市民芸術館
2017年6月3日 長野@もんぜんぶら座

-メンター研修・その他イベント-

2016年10月22日-23日 HLAB 2017 ボードキックオフ合宿
2016年12月18日 大学生メンターリクルート説明会@東京大学
2016年12月18日 HLAB 2016 年次総会
2017年3月 8日-13日 HLAB 2017 運営メンターキックオフ合宿
2017年4月9日 第1回大学生メンター研修
2017年4月15日 HLAB 2017 サマースクール 参加者募集開始
2017年5月14日 第2回大学生メンター研修
2017年5月23日 サマースクール参加者募集 Early Action 締切
2017年6月10日-11日 第3回大学生メンター研修/合宿
2017年6月12日 サマースクール参加者募集 Regular Decision 締切
2017年7月2日 サマースクール参加者合格発表
2017年7月30日 第4回大学生メンター研修
2017年8月11日 大学生事前合宿開始(イントロ期間)
2017年8月25日 HLAB 2017 サマースクール報告会
2017年9月16日-18日 第5回大学生メンター研修/合宿
2017年10月7日-8日 第6回大学生メンター研修/合宿
2017年12月22日-23日 HCJI-LAB 2011, HLAB 2012 5周年リユニオン
2017年12月23日 HLAB 2017 年次総会

このほかにも、多々のアラムナイイベントを開催しました。

-座談会-

今年は計34校で座談会を開催することができました。HLABメンターが、自身の出身高校の後輩達に高校生当時の悩みと現在の考えを対比しながら話すことも多く、高校生達も自分の進路選択について先輩の学びを生かそうと、注意して話を聞いていました。

2017年3月	成蹊高校
2017年4月	徳島北高校
	脇町高校
	城東高校
	聖光学院高校
	大妻中野高校
	富岡東高校
	徳島市立高校
	城ノ内高校
	阿波高校
	富岡西高校
	松本深志高校
2017年5月	城北高校
	城南高校
	浅野高校
	立教女学院高校
	長野高校
	足利女子高校
	松本秀峰中等教育学校
	千葉明德高校
	中野西高校
	日比谷高校
	飯山高校
	岩村田高校
	国学院久我山高校
	ぐんま国際アカデミー
	湘南白百合学園高校
	上田染谷丘高校
	海城高校
2017年6月	野沢北高校
	ICU高校
	開成高校
	関東国際高校
	仙台第二高校
	多賀城高校



メディア掲載

Web メディア 10 件、新聞 9 件、テレビ・ラジオ 7 件、町報誌 3 件から掲載をしていただきました。

2017 年 1 月 16 日	Web メディア	東大新聞オンライン	【HLAB】ハーバードを始めとした海外大生と事業を作るメンバーを募集中！
2017 年 1 月 18 日	Web メディア	Umeet	とりあえず文！？とりあえずコンサル？？そんなんでいいのか東大生！
2017 年 3 月 24 日	Web メディア	DW	Japan: Tokyo's Global Shapers
2017 年 3 月 30 日	Web メディア	News Picks	卒業生が語る「ハーバード流教養教育」の真の価値
2017 年 4 月 16 日	Web メディア	Global Edu	【HLAB2017】全国 4 カ所です 8 月に開催するサマースクールへの参加募集
2017 年 5 月 8 日	Web メディア	アメリバニュース	【夏休み 2017】国際交流「HLAB」サマースクール、参加高校生を募集
2017 年 5 月 8 日	Web メディア	リセマム	【夏休み 2017】国際交流「HLAB」サマースクール、参加高校生を募集
2017 年 5 月 16 日	メールマガジン	リクルート進学総研	
2017 年 5 月 17 日	Web メディア	ホウドウキョク	あえてアナログにこだわるハーバード流「HLAB」は高校生の進路選択を大きく変える
2017 年 6 月 7 日	Web メディア	Education DIAMOND Web	「これからの教養 - 自分の幸せを自身で考えられる力」
2017 年 6 月 9 日	Web メディア	Shareway	【新しい自分と出会う夏にしよう！】出会いと交流から学ぶ"リベラルアーツ"とは？
2017 年 3 月 19 日	新聞	朝日新聞（地方版）	サマースクール 高校生ら報告会「挑戦する気持ち強く」
2017 年 5 月 3 日	新聞	日本経済新聞	ハーバード大生ら、高校生に教養合宿 8 月に 1 都 3 県で
2017 年 5 月 17 日	新聞	高校生新聞	
2017 年 5 月 24 日	新聞	河北新聞	国籍・年代超えて交流を
2017 年 8 月 16 日	新聞	信濃毎日新聞	小布施で学生から学ぶサマースクール
2017 年 8 月 17 日	新聞	河北新報	復興の現場で高校生交流 海外の学生と少人数授業 女川
2017 年 8 月 17 日	新聞	徳島新聞	サマースクール開会式の様子
2017 年 8 月 20 日	新聞	朝日新聞	小布施に今夏も若い息吹
2017 年 8 月 23 日	新聞	徳島新聞	サマースクール 閉会式の様子
2017 年 8 月 21 日	ラジオ	NHK ラジオ	
2017 年 8 月 14 日	テレビ	ケーブルテレビ徳島	あらすわ連 阿波踊りの様子
2017 年 8 月 15 日	テレビ	NHK	阿波踊りインタビュー
2017 年 8 月 21 日	テレビ	フォーカス徳島	サマースクール 1 日間の様子
2017 年 8 月 21 日	テレビ	山梨テレビ	UTY ニュース
2017 年 8 月 23 日	テレビ	ケーブルテレビ徳島	サマースクールの様子
2017 年 9 月 22 日	テレビ	四国放送	県知事スペシャルセミナー
2017 年 9 月 12 日	町報誌	小布施町町報 9 月号	特集 HLAB OBUSE 2017
2017 年 9 月	町報誌	小布施町町報 雑誌	
2017 年 10 月 1 日	町報誌	広報おながわ	



Stay Conneted

Get Involved

Shaping your own future

世界中で活躍する卒業生がメンターに



2000+
alumni !

2016年10月から2017年12月までの間、LAB会を10回、HLAB Conversationを10回、HLAB卒業式を1回開催しました。総計参加者は500名を超え、LAB会は東京だけでなく、関西、東北でも開催し、各地での参加年度を超えたアラムナイ交流が発生しました。

サマースクール以降のHLABとの関わり方について、代表的なものをいくつかご説明します。強いコミュニティを活かして、未来を切り開いていきましょう！

LAB会



LAB会は年度や地域を越えた交流を生み出す懇親会で、月に一回行われています。BBQやスポーツ大会・スキー旅行が開催されることもあります。懐かしい仲間と再会しつつ、さらに新しい仲間と出会えるHLABならではのイベントです。

Homecoming



アラムナイがサマースクール中に帰ることができる唯一の場所です。思い出の場所で、懐かしの仲間たちと再会し、その年の高校生と交流することができます。各地域によって異なるコンテンツが用意されています。

HOUSEに住む



多様な学生と社会人が集う、革新的・実験的な教育寮。7年間の教育プログラムで得た知見に基づき、多様性あふれる東京の地でレジデンシャル・リベラル・アーツ教育の可能性を追求する実験を続け、世界展開を目指しています。

HLAB卒業式



毎年3月、その年に高校を卒業・大学に進学するアラムナイを祝うパーティを開催しています。大学での過ごし方を先輩に聞いたり、自分の進学先の先輩や同期と知り合ったり。タテとヨコの繋がりを広げられるイベントです。

HLAB Conversation



HLABにゆかりのあるゲストをお招きし、美味しいワインと料理をお供に毎月一回開催しているカジュアルな勉強会。過去にはハーバード大教授・手品師・建築家・フェンシング日本代表コーチなどにご参加いただきました。（参加は大学生以上）

報告会・総会



毎年8月と12月にHLABの活動報告をしています。HLABの現在の取り組み、これからの取り組みを議論・検討します。これに合わせてリユニオンやXmasパーティが企画され、サマースクールの仲間と久しぶりに再会する良い機会です。

運営メンターになる



石川 裕伊登

YUITO ISHIKAWA

高校3年時、HLAB TOKYO 2013に参加。その後メンターや運営委員長など様々な形でHLABに関わる。現在アメリカのウィリアム・アンド・メアリー大学4年生。

多様なバックグラウンドを持つメンバーのみんなに圧倒され、自分がこれまで生きてきた世界の小ささに初めて気が付いた高校3年の夏。2013年8月に参加したHLABはアメリカの大学の持つリベラルアーツの精神で私を魅了し、自らの学問への姿勢にも大きな影響を与えました。

たくさんの高校生・大学生・社会人が一つの場所で共に時間を過ごすHLAB。このコミュニティは全ての参加者にとって「気づき」の場となっています。

"一つ一つの出会いや学びのなかで新しい視点・知識・学問に触れ、自分なりの気づきを得る。このような刺激を原動力に新たな一歩を踏み出す。成長した成果を次の世代に還元する。"

こうしたサイクルが存在するからこそ、HLABはどの年代の人にとっても魅力的なのだと思います。高校生としてサマースクールに参加してから、HLABとの関わりは今年で5年目。大学生メンターやサマースクール運営委員長を経験した今、HLABの持つ魅力を改めて強く感じています。

サマースクールでのつながりを活かして社会に貢献する



後藤 大輝

TAIKI GOTO

HLAB TOKYO 2014/2015を経て、HLABで半年間インターン。2017年3月明治大学卒業。大学在学中にNPO法人アスヘノキボウ入社。女川町の地域のハブとして、ヒト・カネ・モノ・情報の流れを創る仕事をする。

人との出会いには、己の進む道をガラッと変えてしまうような心の線に触れる瞬間があると私は思っています。HLABはそんな貴重な瞬間にめぐり合える場です。外交官を目指していた私はHLABがきっかけとなり、今は女川町という小さな町で「地方の新しい在り方を創る」仕事をしています。

HLABには「自分もこうありたい」と思わせてくれる、歳があまり離れていない大学生・社会人のロールモデルがたくさんいます。このような人たちとの出会いは、「自分がどうありたいのか」を考えるきっかけを私たちに与えてくれます。

私の拠点 女川町は2011年に震災を経験し、様々な社会課題を抱える課題先進地です。そこで「いかに持続可能なまちを創るか」という課題に取り組んでいます。女川という場に関わる人を増やし、HLABの多様なコミュニティの中から地方でチャレンジをする人を生むことが解決の糸口だと私は思っています。将来的には、世界の危機から生まれた復興の中長期のまちづくりやビジネスの知見やソーシャルセクターのネットワークを創りたいと思っています。多方面で活躍するアラムナイの方々と、ワクワクするチャレンジに挑むことを楽しみにしています。



Beyond HLAB

HLABは「誰もがメンターを持ち、メンターであることが当たり前の世界」を実現すべく、サマースクールの場で、その実践を行ってきました。しかし、プログラム後の継続した質の高いメンターシップやサマースクールのような密度の濃い場はアラムナイ個々に任されてきていました。そんな中、アラムナイがもう一度集まる場を作り、あの夏のわくわく、濃密さが味わえる場が欲しい、そんな声から自主企画として“Beyond HLAB”は生まれました。これまで、大学生・社会人を中心に卒業後も交流できる場として、2回実施してきました。プログラムはアラムナイ有志によって運営されており、ワークショップやセミナーを中心とした、サマースクールの企画を模した内容をベースとして、成長した自分たちが今もう一度アツく話したいことを話せる場を創っています。



第1回:

- ・2017年3月4,5,18,25日 鳳明館等、都内施設で実施
- ・全21名参加



第2回:

- ・2017年11月3日～5日 河口湖旅館にて実施
- ・全20名参加

今後もアラムナイ自主企画として運営いたします。運営に興味の有る方、参画したい方は**beyond@h-lab.co**までご連絡ください。

グッドデザイン賞 受賞



HLABは2016年に有形無形を問わず「よいデザイン」に対して贈られる「グッドデザイン賞」を受賞いたしました。1957年から60年近くにわたって続くグッドデザイン賞において、「社会的な仕組みのデザイン」が受賞する例はあまり多くなく、「先輩から後輩へ」、「インバウンドからアウトバウンドへ」と経験が還流する仕組みを、自治体や企業も組み込みながらマルチセクターアプローチで作り上げた点が評価されました。

<http://www.g-mark.org/award/describe/44544>

【受賞理由】

国内外の学生や社会人が共同生活を行うサマースクールに参加し、議論し、相互に学びあい、次世代の人材を育成するプロジェクトである。地方の自治体や企業とのつながりもうまく組み込まれている。おそらく参加者にとっては、そこでの濃密な経験はもちろん、築かれた国際的な人のネットワークが今後の大きな資産となるだろう。これは2011年から開始し、すでに多数の参加者を迎えており、実績も十分であることも高く評価された。



賛助会員入会・御寄付・御支援のご案内

高校生に素晴らしい夏を、そして、新しい学びの機会をご一緒に提供していきませんか？

HLABの活動趣旨にご賛同賜り、その遂行に積極的なご協力をいただくとともに、事業活動の成果を十分にご活用いただきたく、賛助会員制度と寄付金制度を設けています。

HLABは、多くの企業様・財団様からの協賛金・助成金や、HLABの目的に賛同される会員の方々から納入していただく賛助会費・御寄付などによって運営されております。HLABでは、個人や企業・団体の皆様から、賛助会員として、単発的な寄付として、または物資・物品のご提供など、様々な形で御支援をいただいております。

<https://my.h-lab.co/support>

御支援いただきます皆様にはmy.HLABでのアカウントを作成いたします。特典のイベント等のご招待はmy.HLABを通じて行われます。

また、銀行振込でも寄付を承っております。弊社より確認と御礼のご連絡を差し上げるため、Webより「申し込みフォーム」においてのご連絡先のご記入・ご郵送に御協力ください。

【振込先】

ジャパンネット銀行

支店:すずめ支店(002)

預金種目:普通

口座:2304056

名義:一般社団法人HLAB会員口

※お振込手数料はご負担下さいますようお願い申し上げます。

my.HLAB サイトマップ 応募ページ イベント/協賛会 サポート

賛助会員入会・御寄付・御支援のご案内

より多くの高校生に、最高の夏を届けるために。

見込金の徴収額にご賛同賜り、その遂行に積極的なご協力をいただくとともに、事業活動の成果を十分にご活用いただきたく、賛助会員制度と寄付金制度を設けています。

HLABは、多くの企業様・財団様からの協賛金・助成金や、HLABの目的に賛同される会員の方々から納入していただく賛助会費・御寄付などによって運営されております。HLABでは、個人や企業・団体の皆様から、賛助会員として、単発的な寄付として、または物資・物品のご提供など、様々な形で御支援をいただいております。

御支援いただきます皆様にはmy.HLABでのアカウントを作成いたします。特典のイベント等のご招待はmy.HLABを通じて行われます。

個人の方

- ✓ 賛助会員になる
Continuous Investment
賛助会費（年次費）を納入されることにより、賛助会員となります。
[詳細](#)
- ✓ 寄付をする
One-Time Donation
企業からの寄付が可能です。
[詳細](#)

法人の方

- ✓ プロボノになる
Pro bono
HLABサマースクールを企画・運営するに当たり、必要となる物品のご提供や施設のご提供などの支援も、大歓迎となります。ご関心のある方は、当館以下連絡先までお問い合わせください。お返に、より詳しくご連絡させていただきます。
[メールでの問い合わせ先](#)
info@h-lab.co.jp



レジデンシャル・カレッジ事業

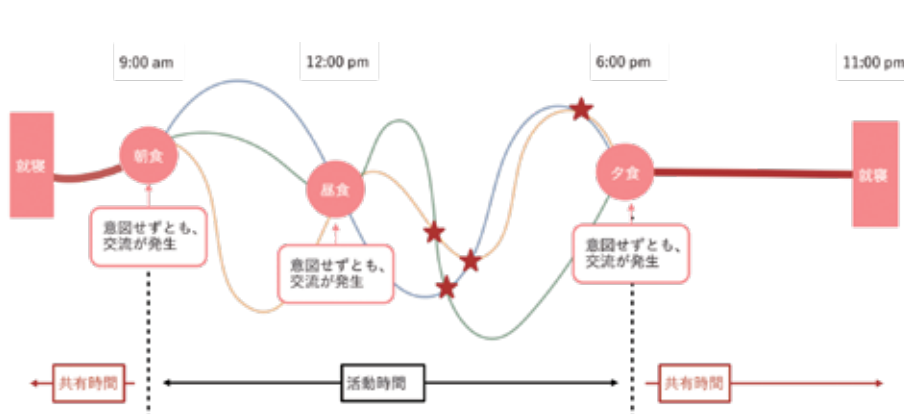
HLAB では、「高校生と大学生が世代や国境を越えて学び合う、21 世紀の学校のスタンダードを日本から海外へ」をコンセプトに、学校に紐付かない形の新たな教育寮、「レジデンシャル・カレッジ」の開設へ向けて、動き出しています。

背景 | 教育の中心は、授業などコンテンツ提供から、多様な学生の学び合いのための環境・コミュニティ提供へ移る

学びとは自分の知らない世界との出会い。スタディサプリなどの MOOC s (Massive Open Online Courses) により、授業への対価としての授業料というビジネスモデルが根本から崩れる今、教育の真の価値は多様な住環境と互いからの学び合いを担保する寮に見出されています。



日本の現状 | 通学型で教育コンテンツ（学校・塾産業）が成熟する一方、質の高い居住型の教育機関はほぼ存在しない
学生が各々自宅から学校へ通学する日本の現状では、世界の一流教育機関に比して生まれる学びが非常に限定的。異なる背景や学校、世代から集う学生が共生する教育環境ができれば、各自の行動圏が集約され、学びにつながる確率は飛躍的に向上すると考えています。



多様な人が目的なく出会うことで、思いがけない学びが数多く生まれる。

レジデンシャル・カレッジでの1日：多様な背景を持つ学生が、就寝・食事のためにレジデンシャル・カレッジに戻ることによって、行動圏が集約される。

ソリューション | 既存の学校に紐付かない、学校・世代横断型の国際的レジデンシャル・カレッジを事業化

HLAB は、各教育機関に付属した寮とは異なり、世界で始めて既存の高校・大学に紐付かない寮「独立系レジデンシャル・カレッジ」を提案します。

- ① 世代を跨ぐ多様でグローバルな居住者：学校や世代を超えたラーニング・コミュニティ
- ② 既存の学校や塾を独立系の寮で補完：リベラル・アーツの寮教育に特化した教育機関として、既存の学校や塾を補完
- ③ 短期・リスクフリー・安価な一流のボーディング体験：既存の学校に通い続けながら、短期・安価で一流ボーディングスクールの魅力を体験し、進路リスク等の不安要素を最小化



HLAB は、2016 年 10 月に、多様な学生（大学生・高校生）と社会人が集う、3 階建ての革新的で実験的な教育寮、“THE HOUSE by HLAB” を中目黒にオープンしました。2011 年より続く教育プログラムの運営で得た知見に基づき、多様性溢れる東京でレジデンシャル・リベラル・アーツ教育の可能性を追求する実験を続けています。



Concept

THE HOUSE by HLAB では、高校生と大学生、そして社会人が共に住み、日常的なピア・メンタリングの機会を創出しています。また、月 170 人を超える住人以外のゲストも、世代や職業を超えて訪問するため、多様性に溢れる空間です。その空間での学びを通じ、将来の主体的な進路選択のみならず、新しいマインドセット、スキルセットを身につけることができます。

Facility



Common Room

コモンルーム（リビング）

住人が大部分の時間を過ごすコモンルームは、テレビを見てくつろいだり、壁一面のホワイトボードを使った議論をしたり、HOUSE の交流の場の中心となります。



Private Room

(Single/Double)
個室（シングル / ダブル）

個室にはベッドと机、ハンガーポールが備え付けられています。また、学生は、2 段ベッドで 2 人 1 部屋となり、さらなる交流が促進されます。

Voice from



石井 大智
DAICHI ISHII
HLAB TOKYO 2012 アラムナイ

THE HOUSE は自動運転のレクチャーが始まったと思えば、即興マジックショーが行われるという HLAB が培ったコミュニティの多様性を示す場所になっています。日常に HLAB がある空間は、サマースクールのような新しい他者と自己の発見の連続で毎日がワクワクであふれています。

Contact Us

house@h-lab.co

Residential College のプロトタイプ THE HOUSE by HLAB のプロジェクトに、住人として参画してくださる高校生、大学生、社会人の皆様を随時募集しております（人数に限りがあり、選考がございます）。

氏名、学校・学年（社会人の方の場合、現在のご所属）、HLAB 参加年度（参加のご経験があれば）と共に、お問い合わせ内容をお送りください。



Living on Campus

HLAB は世界中のキャンパスの様子を、より鮮明に、身近に伝えることができる Web メディア、"Living on Campus" を開始します。(2018 年初旬オープン予定)

海外大学をはじめとする寮生活の環境の中での RESIDENTIAL (住環境) × DIVERSITY (多様性) を体感する学生たちは、"Ambassador" として世界中にキャンパスライフを発信します。テーマに基づいた映像により、さらに生き生きとした姿の留学体験を知ることが可能です。文章によるものが多かったこれまでの留学体験記より、さらにカジュアルに世界中のキャンパスの様子をお伝えいたします。

Living on CAMPUS

アンバサダー一覧大学一覧テーマ一覧

NEW



NEW



NEW







お気に入りの場所

2017.11







NEW



WHERE DIVERSITY MEETS LEARNING

「留学したいけれども、どんなところか行ってみたいとわからない。」留学につまみとう不安の原因は、「未知」であることです。
「ちょっと年上のお兄さんお姉さんたちが、どのような留学生活を送っているか、もっと知りたい。」
これから留学に立つ人々のため、そんなニーズや思いから創り上げられたのが、このAMBAASSADORS by HLABです。
世界中に留学している学生の、キャンパスでの様子をお届けします。
興味のある国、大学、テーマで御覧ください！

大学名

全ての大学

キーワード

全てのキーワード

月

全ての月

NEW



NEW



NEW



livingoncampus.net(仮)



柳井正財団海外奨学金への協力

一般財団法人柳井正財団による本奨学金は、グローバルな知見を有するリーダーを育成する目的で2016年に設立されました。米国大学学部への進学を志す高校生に対し、4年間で約3,200万円（28万USD）を上限に支給いたします。HLABは財団の委託を受け、本奨学金の制度設計と選考の一部、メンター制度を通じたコミュニティ構築のサポートを提供しております。

第一期生は全37名で、うち、HLABが選考協力を行った一般公募では**26名の選出**となりました。

また、奨学生の渡米に先立ち、**5月12日～5月14日にサマースクール開催地でもある長野県小布施町にて奨学生キックオフ研修合宿を実施**し、奨学生と近年米国大の学部を卒業したメンター陣が一同に介しました。合宿中は小布施の美しい自然とのんびりとした空気の中、奨学生間の交流や、米国大学卒業生を中心とする社会人メンターとの交流に重点を置き、ワークショップをはじめとする企画を実施いたしました。

上記の合宿をはじめ、HLABのメンターを交えた懇親会や、オンラインでのSkypeチェックイン等を通じ、タテとヨコのつながりを強固なものとし、奨学生のコミュニティ構築と生活サポートを実施しております。

柳井正財団は2018年度も、同様の支援内容にて、一般公募では20名程度（予定）の高校生に対しての支援を予定しております。

・第一期（2017年9月入学）の実績

合格人数：26名

- 一 男性：7名、女性：19名
- 一 国内高校からの応募：19名
海外高校からの応募：7名

・奨学生の進学先

Bowdoin College, Brown University, Carleton College, Columbia University, Harvard University, Middlebury College, Northwestern University, Princeton University, Stanford University, University of California, Los Angeles, University of Chicago, University of Pennsylvania, Wellesley College, Wesleyan University, Yale University 他

海外大学進学を目指す方へ

私たちは、世界を舞台に挑戦する
若者を応援します。

A LANDMARK SCHOLARSHIP FOR JAPAN'S TOMORROW.

一般財団法人柳井正財団（理事長 柳井正）は、グローバルな知見を有するリーダーを育成する目的で奨学金を提供します。
HLABでは財団の委託を受け、奨学金の制度設計と選考に協力いたします。

Powered by

一般財団法人 柳井正財団
Yanai Tadashi Foundation

 **70,000** x  **20** x  **4**
USD STUDENTS YEARS

柳井正財団海外奨学金ページ (<http://h-lab.co/scholarship>)



チーム

フルタイムで関わるメンバーのほか、プロジェクトの目的に応じたチームを随時組織し、柔軟に活動。



小林 亮介

代表理事

HLAB代表。1991年東京都生まれ。桐朋高校、1年間の交換留学を経て、2009年4月に一橋大学、9月にハーバード大学に入学。2011年に高校・大学生対象の教育事業HLABを立ち上げ、14年に法人化し代表。奨学金の設立やカレッジの企画運営に取り組む。2014年三郷委員会のロックフェロー・フェローにアジア太平洋地域を代表して選出、世界経済フォーラム（ダボス会議）傘下のグローバル・シェパード・コミュニティのメンバー。大学在学中は政治・経済学を修める。



竹内 弘高

理事

1969年、国際基督教大学卒業。71年に米カリフォルニア大学バークレー校で経営学修士（MBA）、77年に博士号を取得。ハーバード・ビジネス・スクール、一橋大学商学部の助教授を経て、87年、一橋大学教授に就任。一橋大学大学院国際企業戦略研究科の立ち上げに尽力し、10年までの12年間、研究科長を務めた。一橋大学名誉教授で、2010年から米ハーバード・ビジネス・スクール教授を務める。



黒川 清

理事

東京大学医学部卒、同大助手を経てペンシルベニア大学、カリフォルニア大学ロサンゼルス校(UCLA)、南カリフォルニア大学医学部准教授を経てUCLA 医学部教授。その後、東京大学教授、東海大学教授 医学部長を務める。学会の要職を歴任後、日本学術会議会長も務めた。06年より政策研究大学院大学 教授、その後同アカデミックフェロー。11年に国会福島原発事故調査委員会委員長。その活動に対し米誌「フォーリン・ポリシー」の世界的思想家トップ100の1人に出選。



横山 匡

監事

1958年東京生まれ。中学時代をイタリア、高校、大学を米国で過ごす。UCLA言語学部卒。在学中、日本人初のNCAAバスケットボールチームヘッドマネージャーとして各地に遠征。卒業後帰国し、以来語学留学指導に携わる。現在、アゴス・ジャパン代表取締役。社外ではHLABアドバイザー、ワーク・ライフバランス社アドバイザー、JAOS海外留学協議会理事など、学生団体やアスリート支援を中心に活動中。



Ezra Vogel

特別顧問

ハーバード大学名誉教授。1930年米国生まれ。オハイオウェスリアン大学卒業後、米陸軍を経て、ハーバード大学にて博士号取得。日本に加え、中国研究も着手。67年にハーバード大学教授、その後同大学東アジア研究所長、日米関係プログラム所長、フェアバンク東アジア研究センター長などを歴任。著書「ジャパ・ア・ズ・ナンパー・ワン」は日本でベストセラーになった。2011年には10年強を投じて執筆した「鄧小平」を出版。



山崎 繭加

人事戦略担当パートナー

華道家・ハーバード・ビジネス・レビュー特任編集委員。東京大学経済学部卒業後、マッキンゼー・アンド・カンパニー、東京大学先端科学技術研究センターを経て、ジョージタウン大学国際関係大学院へ。2016年8月末まで10年にわたり、ハーバード・ビジネス・スクール（HBS）日本リサーチセンターでアシスタントディレクターを務める。また、2010年から2017年まで、東京大学医学部特任助教としてリーダーシップ・プログラム運営に従事。



市村 良三

HLAB OBUSE 実行委員長

小布施町長。長野県長野高等学校、慶應義塾大学法学部政治学科卒業。ソニー（株）の後、27歳で帰郷。1979年（昭和54年）末、おじ（実父の兄）で元県議・小布施町長の市村郁夫氏が亡くなり、翌年、郁夫氏の子息でいとこの市村次夫氏とともに（株）小布施町の経営を引き継ぐ。町並み修景事業を推進。取締役営業部長を経て、元代表取締役副社長。元（株）樹一市村造酒場副社長。2004年12月小布施町長初当選。



甚上 直子

研修アドバイザー

ハーバード・ビジネス・スクール（HBS）日本リサーチ・センター。マッキンゼー・アンド・カンパニー東京支社およびMcKinsey Global Institute（米国）での勤務を経て、東京大学特任助教としてリーダーシップ・プログラムの開発・運営に従事。また、設立準備段階から携わるUWC ISAK Japanにおいて、教育・研修プログラムの設計・運営を担当。国際基督教大学教養学部卒、米国スタンフォード大学教育大学院修士課程修了。



小松 洋介

地域コーディネーター

特定非常営利活動法人 アスヘノキボウ 代表。大学卒業後、株式会社リクルートに入社。東日本大震災を機に退職、女川町復興連絡協議会戦略室に入社。2013年アスヘノキボウを設立し代表理事。2014年4月女川町町会職員として、まちづくり担当を兼任。国内外と女川をつなぐハブ役として、まちづくり、創業支援、事業開発、移住、人材育成等に携わる。2014年にAERA「日本を突破する100人」、2015年に日本青年会議所人間力大賞経済産業大賞。



大宮 透

地域コーディネーター

慶應SDM・小布施町ソーシャルデザインセンター研究員。東京大学工学系研究科修士課程在学中の2013年より小布施町に移住。2013年度より、官学連携研究機関「法政大学・小布施町地域創造研究所」（現・慶應SDM・小布施町ソーシャルデザインセンター）の主任研究員。都市計画等の専門領域で得た知見や東北における実践的なまちづくり活動の経験を生かし、「小布施若者会議」など、行政や町民、町外の若者をつなぐプロジェクトを企画立案、コーディネートしている。



浦田 修伍

ウェブクリエイティブサポーター

1993年大阪府生まれ。幼少期をドイツで過ごす。大学在学中よりUI/UXデザイナーとして活動をスタートし、ITスタートアップ数社でサービス設計を担う。現在は東京に拠点をもちながら、日本各地にある言語化されていない魅力をWEBや映像を通して伝え、ヒットモノが循環する仕組みづくりを行っている。



伊納 達也

映像ディレクター

Filmmaker。1988年愛知県春日井市生まれ。関西学院大学在学時より、社会問題の映像化・サイエンス領域の視覚化をテーマとして、映像作家としての活動をスタート。卒業後、東映CM株式会社に入社。2012年からはビデオグラファーとしてノンフィクション・コマーシャル映像の制作を始める。プロジェクトに寄り添った形の「映像を使ったコミュニケーションの構築」を専門に活動中。



梶川 奈津子

PRコミュニケーションサポーター

1992年、広島県生まれ。福岡県出身。早稲田大学文学部在学中に、クリエイティブディレクションやHLABにおいて、PRコミュニケーションの現場を経験。卒業後も、コミュニケーションデザインを軸に活動を続ける。人材広告会社では、コーポレートおよび採用PRに従事。個人では編集・ライターとして、ミレニアル向けのWebメディアを中心に執筆中。



谷口 優太

ファンダレイジング・ワークショップサポーター

旅行コンサルタント、ワークショップデザイナー。三重県鳥羽市の旅館「扇房閣」の5代目跡取り息子として生まれる。6歳から現在まで野球を続け、明治大学野球部で活動したのちに、ワシントン州立大学にスポーツ留学。ハスキーーズでアシスタントマネージャーを務める。在学中は、東北の復興支援活動やHLAB運営、企業向け研修の設計など行う。卒業後は、旅行会社Expediaにて旅館コンサルティング事業に従事したのち、現在は長野県小布施町にて観光DMOの立ち上げを行っている。



河合 道雄

奨学金戦略担当サポーター

2011年～2014年のHLAB実行委員。東京大学文学部、京都大学大学院教育学研究科を経て、現在は株式会社LITALICOで社会課題の克服に取り組む。在学中、HLABの立ち上げに従事、また大学院在学中には米国HarvardXにてオンライン教材制作に関わる。「トビタテ！留学JAPAN」の効果測定にも携わる。



高橋 祥子

奨学金戦略担当サポーター

2011年及び2012年のHLAB実行委員。慶應義塾大学法学部を卒業後、マッキンゼー・アンド・カンパニーに就職。教育分野への興味・関心から、文部科学省官民協働海外留学創出プロジェクト「トビタテ！留学 JAPAN」プロジェクトメンバーとして留学生向けコミュニティの制度設計や成果指標の設計等に関わる。現在は、地域における社会課題を解決するプロジェクト等を行うGlobal Shapers Communityの一員としての活動にも従事。



守谷 僚泰

設計室サポーター

2012年University of Arkansas Fay Jones School of Architecture、2015年にHarvard University Graduate School of Design (GSD)を卒業。学生時代は都市計画やデジタルアプリケーションを中心に研究。現在は、隈研吾建築都市設計事務所にて商業建築やリゾートホテル等の設計に携わる。レジデンシャル・カレッジ事業を設計面からサポート。





櫻堂 美夏子

総務担当 マネージャー

1988年生まれ。小学生時代2年間を米国コネチカット州で過ごす。日本大学芸術学部演劇学科演技コース卒業。在学中は川村毅氏、加藤直氏等の作品に出演。卒業後、フリーの女優としてミュージカルや小劇場を中心に活動。「ラフカット2012」をきっかけに堤泰之氏の作演舞台に多く出演。2016年より女優業を一旦休止し、HLABに参画。バックオフィス全般を担当する傍ら、2018年より女優業も再開。



神馬 光滋

CTO

Flagship LLC Captain. 1989年、千葉県生まれ。少年期をカトマンズ、ボストンで過ごす。大学卒業と同時にFlagship LLCを創業し、インターネット領域での自己表現の加速支援集団として活動。HLABには直接参加したことがないものの、インターネット領域担当パートナーとして伴走中。フルスタックエンジニア/UXディレクター。



高田 修太

共同創設者・事業開発ディレクター

1989年生まれ。当時国内水質ワースト1という不名誉な手賀沼のある町、我孫子市で田んぼに囲まれ育つ。東京大学工学部、同大学院工学系研究科修了。米国イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校でも1年間研究留学を行った。大学院修了後はボストン・コンサルティング・グループにて通信・デジタル関連の戦略策定プロジェクトにコンサルタントとして携わったのち、2017年HLABに復帰。



山崎 奈都子

共同創設者・ディレクター

1989年生まれ。横浜育ち。小学校後半をイギリスの田舎町で過ごす。東京大学法学部卒業後、マッキンゼー・アンド・カンパニーの東京オフィス及び米国オフィスで勤務し、消費財・小売業の海外進出、マーケティング戦略立案をサポート。その他、政府系機関にて日本の国際広報に従事。2017年9月よりMBA留学の予定であったが、一年延期し、HLABへ再度参画。Residential College事業を中心に手がける。

学生ボード



小林 直貴

学生代表

東京大学 法学部 政治コース
HLAB TOKYO 2016/運営メンバー

海外大学生リクルーティングチーム

Kosta Karakashyan
Talha Erbilli
Samantha Fruwirth
Yuta Inaba

Columbia University
The Hague University of Applied Sciences
Columbia University
Columbia University



宇都木 大樹

HLAB TOKYO 運営委員長

国際基督教大学 教養学部
アーツ・サイエンス学科
ジェンダー・セクシュアリティ研究専攻/
美術文化財研究副専攻
HLAB TOKYO 2011/参加者
HLAB TOKYO 2015/運営メンバー



塔下 剛至

HLAB TOKYO 副運営委員長

慶應義塾大学 経済学部
HLAB TOKYO 2011/参加者
HLAB TOKYO 2016/運営メンバー



倉田 芽衣

人事部長

Grinnell College
Gender, Women's and Sexuality Studies,
Political Science (double major)
HLAB TOKYO 2013/参加者
HLAB TOKUSHIMA 2015/運営メンバー
HLAB TOKYO 2016/運営メンバー



河田 英貴

HLAB OBUSE 運営委員長

慶應義塾大学 法学部 法律学科
HLAB OBUSE 2014/参加者
HLAB OBUSE 2016/運営メンバー



周 理奈

HLAB OBUSE 副運営委員長

早稲田大学 国際教養学部 国際教養学科
HLAB OBUSE 2015/運営メンバー
HLAB OBUSE 2016/運営メンバー



石川 小百合

高校生対応部長

大阪大学 外国語学部 外国語学科
HLAB TOKYO 2016/運営メンバー



川端 明日香

HLAB TOKUSHIMA 運営委員長

徳島大学 医学部 医学科
HLAB TOKUSHIMA 2016/運営メンバー



栗山 愛由

HLAB TOKUSHIMA 副運営委員長

早稲田大学 政治経済学部 政治学科
HLAB TOKYO 2014/参加者
HLAB TOKYO 2016/運営メンバー



山本 龍起

会計部長

首都大学東京 都市教養学部
経営学系経済コース
HLAB TOKYO 2016/運営メンバー



坂田 悠人

HLAB MIYAGI-ONAGAWA 運営委員長

慶應義塾大学 環境情報学部
HLAB TOHOKU 2016/撮影スタッフ



田中 絹子

HLAB MIYAGI-ONAGAWA 副運営委員長

慶應義塾大学 総合政策学部
HLAB TOKYO 2014/参加者
HLAB TOHOKU 2015/運営メンバー



高橋 健太

広報部長

既卒
HLAB TOKYO 2016/運営メンバー



福田 健太

事業企画部長

東京大学 法学部 法学総合コース
HLAB TOKYO 2016/運営メンバー



遠藤 玲希央

コミュニティマネジメント部長

東京大学 農学部 獣医学課程獣医学専修
HLAB TOKYO 2012/参加者
HLAB 2016/アラムナイ担当



酒井 良

クリエイティブ

慶應義塾大学 理工学部 物理情報工学科
HLAB TOKYO 2016/撮影スタッフ



HLAB企業情報・沿革

-企業情報-

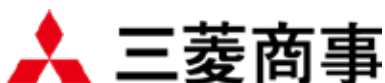
HLABは、「3年前の自分があつたら良かったと思う教育環境を実現する」ことを理念に、人々が常にピア(お互い)から刺激を受け、学び続けるための、革新的な学びの体験や空間、そしてコミュニティをデザインする会社です。

自ら新たな学びの環境を実装する事業を手がける他、財団や教育機関、不動産事業者を対象としたコンサルティング業務や協業を行っています。

-企業沿革-

- 2009 | 創設者の小林亮介が、一橋大学とハーバード大学の学友と、進路指導への「レジデンシャル・リベラル・アーツ教育」の応用を着想、HLABの構想をスタート。
- 2010.7 | 全国の高校での「進路座談会事業」開始。
- 2010.8 | 日米学生会議の最終報告会にて、教育分科会の成果として「サマースクール事業」の構想を発表。
- 2011.2 | 2年間の準備を経てHLABの「サマースクール事業」が、ハーバード大学と東京の二拠点で発足。
当初、IMPACT Foundation Japanを主催に、有志団体が企画・運営を担う形をとる。
- 2011.8 | 東京で初のサマースクールを開催。
- 2012.8 | 鳥取で初の地方スピンオフ・プログラムを開催。
- 2013.8 | 第二拠点として長野県小布施町でサマースクールを初めて地域開催。初の自治体との共催事例。
- 2014.8 | 第三拠点として徳島県牟岐町でサマースクールを開催。初の県教育委員会との共催事例。
石川県小松市でスピンオフ・プログラムを開催。
- 2014.12 | 「一般社団法人HLAB」として法人化。
- 2015.8 | 第四拠点として、東北でサマースクールを開催。
- 2016.10 | 教育寮「レジデンシャル・カレッジ事業」を開始。
第一号案件として中目黒で実験的教育寮「THE HOUSE by HLAB」を設立、運営を開始。
- 2017.2 | 「株式会社エイチラボ」を設立。
- 2017.5 | 海外大学への全額給付奨学金「柳井正財団奨学金」を開始。企画と運営を担い、第一期生を37名米国に送り出す。

メインスポンサー



HLAB Annual Report 2017

Design/Edit: Ryo Sakai, Jueri Murasaki, Goro Hishida,
Minami Ueda, Miki Matsuda

Published: December 16th, 2017

Copyright: HLAB, Inc.

Mail: info@h-lab.co

Web: <http://h-lab.co/>

Facebook: [hcji.lab](https://www.facebook.com/hcji.lab)





WHERE DIVERSITY MEETS LEARNING

<http://h-lab.co>

